6年の学習
GAKUSHU
6月教材
社団法人 日本PTA全国協議会推薦
学習指導要領に対応
第2学習教材●社会科
人物まんが
日本の歴史 上
教科書の「歴史」の勉強がよくわかる
大むかしのくらしから鎌倉時代まで

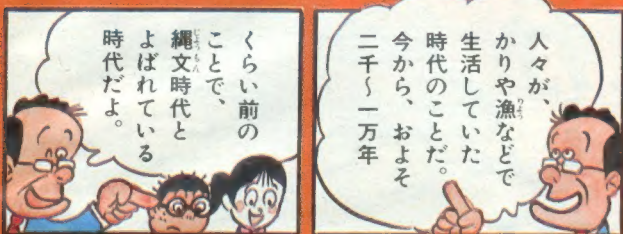
もくじ

＊この本に出てくる人物は、生まれた年を１才として計算してあります。

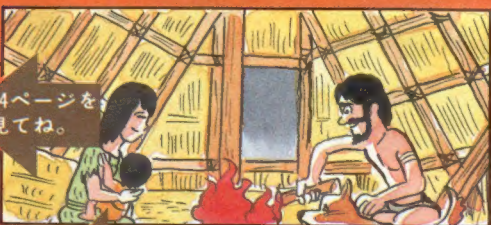
第1部 大むかしのくらし

大むかし、日本列島に住んでいた人々は、かりや漁、木の実の採集などで食料を手に入れていた。

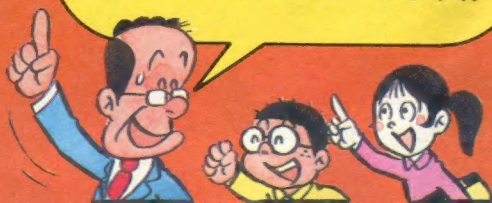
"実験・大むかしのくらし"を読む前に

大むかしって、いつのこと？

●縄文時代の人々を、縄文人とよんでいます。

4ページを見てね。

10ページを見てね。

14ページを見てね。

次のページから、縄文時代のさまざまな実験が始まるよ！

さあ、こうした大むかしの人々のくらしを、実験でたしかめよう!!

実験・大むかしのくらし①

縄文人の魚つり

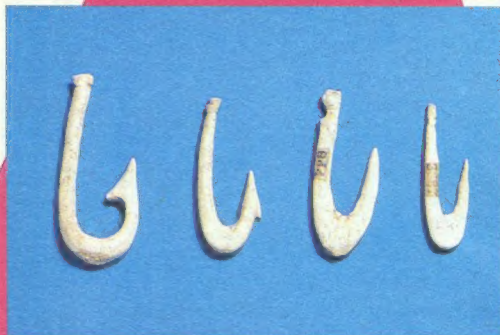
縄文時代の貝塚*などを調べると、左のページの写真のようなものが出土してくる。明らかに、つりばりである。

当時の人々は、このようなつりばりを使って、いろいろな魚をつっていたのだ。

また、さまざまな工夫をこらしたもりを作り出して、それで魚をついてとっていた。さらに、大きなあみも考え出して、漁に使っていたようだ。

つまり、縄文人は漁がとても得意だったのだ。

＊貝塚＝大むかしの人々のごみ捨て場。

◆出土したいろいろな形のつりばり

◀今から四千～四千二百年ほど前のつりばり。大きいものは、約七～八センチもある。（石巻市南境貝塚）

▶復元した〝縄文つりばり〟で、こんなりっぱな魚がつれた！

つりばり作りにチャレンジ!!

(石巻市南境貝塚)

▲出土した作りかけのつりばり。

出土した縄文時代のつりばりを調べると、シカの角を利用していることがわかった。さっそく、本当に作れるかどうかを、実験してみた。

①

▼シカの角に水をつけながら、石のナイフで切れ目を入れる。

②

◀石のおのを切れ目にあて、角をたて半分に打ち割る。

③

▲ほどよい大きさに切り、つりばりの形をかく。

④

▼石のナイフで、水をつけながら、すり切る。

▶再現に成功した、現代の"縄文つりばり"。今のつりばりより大きいが、これで十分魚はつれる。

▶ていねいに仕上げをする。小さな石のナイフで、表面をなめらかにしていく。

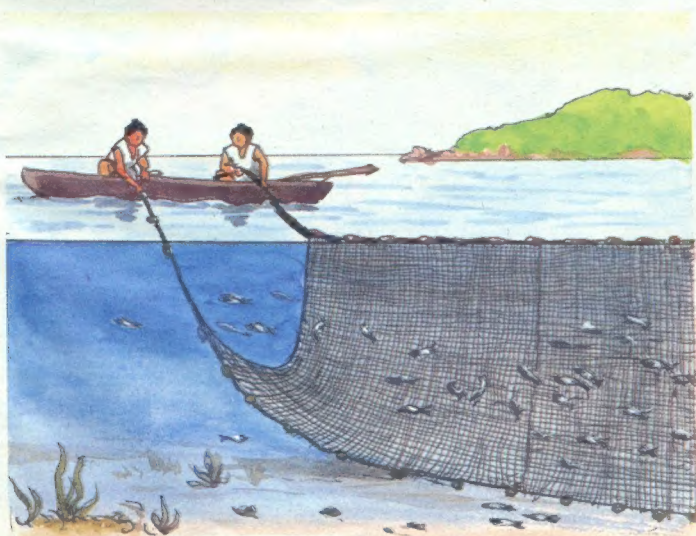
▶だんだんつりばりの形になってきた。まわりのいらない部分は、切り落とす。

●次のページの"もり"も、同じようにして作りました。

（写真は、石巻考古学研究所資料）

もりで魚をついた!

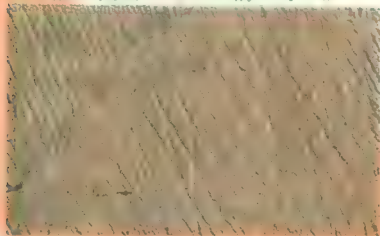
▲当時のもり(復元(ふくげん))

あみで魚をとった!

出土したもり

▲みごとに魚をつきさした！

魚をとるもう一つの方法は、もりでつきさすことだ。縄文時代の人々は、シカの角を加工し、さまざまな工夫を加えて、目的に合わせたもりを考え出している。

その威力は、上の写真のとおりだ。

▲今から2400年くらい前のもりの先。細かい加工がわかる。（石巻市沼津貝塚）

さらに、当時の人々は、魚が泳ぎ回る海域に、横長の網をたらし、それに魚がかかるのを待つという、さし網の漁法を知っていた。

土器に残る網のあとや、網を作るための網ばり、おもりの石などからわかる。

▼土器の表面についた網のあと。

◀網のおもりにした石。

（宮城県宝ケ峰遺跡）

▼シカの角で作った縄文時代の網ばり。

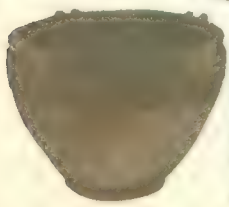
（宮城県里浜貝塚）

縄文人の土器作り

◀約4200年ほど前の土器。高さ23cm。

（石巻市仁斗田貝塚）

▶約四千二百年前の土器。

（石巻市南境貝塚）

◀約二千年くらい前の土器。

（石巻市沼津貝塚）

縄文土器作りにチャレンジ!!

縄文土器は、どのようにして作られたのだろうか？ さっそく、石巻市立万石浦小学校の菊地正彦君と、気仙沼市立南気仙沼小学校の黒沢利江さんの二人が、ちょう戦してみた。

今回は、「輪づみ法」というやり方でやってみた。

▼ねん土をしっかりもんで、中の空気をぬき、質を均一にする。

①

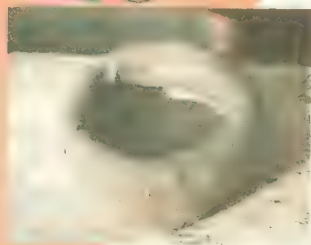
②

◀ねん土を適当な量に分けて、ひも状にのばす。ひも状のねん土を10本ぐらい用意する。

③

▲底を作り、ひも状のねん土を輪にして積み上げていく。

▼輪と輪のさかいがなくなるように、ていねいに形を整えていく。

④

▲縄目をつけるより糸。

▼より糸をおしつけ、ころがすようにして、縄目もようをつけていく。

⑤

▲日かげでかんそうさせて、生がわきの状態にさせる。

⑥

●なぜ、縄目をつけたの？

いったいなぜ、当時の人々は、土器に縄目のもようをつけたのだろうか？　これについては、さまざまな考え方がある。

その一つは、すべり止めである。持ち運ぶとき、この縄目がついていると、すべりにくくなるからだ。

また、美しさの表現だという考え方もある。のっぺりした表面より、こうしたもようがあったほうが、より美しく見えるからだ。

▼土器に残る縄目もよう。

▶しっかりかんそうしたら、かれ草、かれえだ、まきなどを用意して焼く。まず、熱いはいで土器をおおい、少しずつ火力を強めて焼き上げる。

うわっ、こんなにおいしいなんて!?
縄文土器で、料理を作ってみたよ。

はたして縄文土器で、料理ができるかどうか、実験してみた。

縄文土器の中に水を入れ、まわりで火をたいて湯をわかした。その中に、ぶた肉、しいたけ、しめじ、わらび、ぜんまいなどを入れてにこんだ。

古代の調味料を使って、とてもおいしい料理だった。

▲右の土器には古代のしょう油を、左の土器には古代のみそを入れて、味つけした

実験・大むかしの生活③

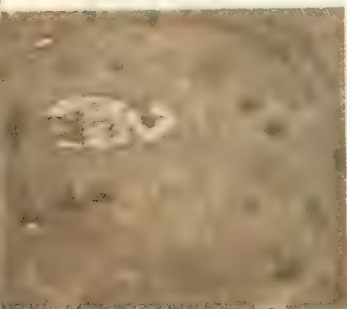
縄文人の家作り

▼福島県二本松市で発見された縄文時代の住居あと。柱を立てた穴が、あちこちに残っている。

（福島県教育庁文化課）

縄文時代の家作りにチャレンジ！

のこぎりやかなづちなどの大工道具が何もない縄文時代に、はたしてこのような家が作れたのだろうか？

さっそく、当時と同じような方法で、たて穴式住居作りにちょう戦してみた。

①

▶地面をほり下げ、土どめのくいをうち、柱とはりを組み上げる。

②

◀さらに何本ものはりなどをふじづるやかずらのつるで結びつけ、骨組みを完成させる。

▼下から順に、かやで、屋根をふいていく。もうすぐ完成だ。

③

（気仙沼青年会議所）

▲中二階は寝室として使った

◀いろりの上に……

大むかしのくらしQ&A

◆かりをする旧石器時代の人々

Q 日本には、いったいいつごろから人が住んでいたのかな？

A

●三万年前には牛川人

日本列島には、数十万年前から人が住んでいたようだ。愛知県豊橋市牛川町で見つかった人骨（牛川人）は、のちの日本人とはかなりちがう形をしている。ほぼ三万年前のものと考えられている。

●わたしたちの祖先？　三ケ日人

静岡県三ケ日町で見つかった人骨（三ケ日人）は、牛川人より新しく、のちの縄文人の祖先と考えてもよさそうだ。身長百五十センチほど（男子）だったらしい。

このほか、兵庫県明石市の海岸で見つかった明石原人なども、旧石器時代の人骨であるといわれている。

◆旧石器時代の人々のおもな道具

▼チョッパー　木を切ったり、武器などとしても使った石器

▼サイドスクレイパー　革をなめすため、しぼうをとりのぞいたりするのに使った。

▲ポイント　木のえの先につけて、やりなどとして使った。

Q 旧石器時代の人々は、どんな道具を使ったの？

A

●石をうちかいて――

この時代の人々は、まず石や棒をそのまま、道具として使った。

やがて、自然の石をうちつけて簡単な刃をつけたれき石器を作り出した。さらに、これを打ちかいて、にぎりづちなどの石核石器を作り出した。

●石のかけらも利用して――

また、石核石器を作るときにできるかけら(はく片)の、うすい刃の部分を利用して、はく片石器も作り出された。

このようにして、旧石器時代の人々は、時代の流れとともに、さまざまな石器を工夫して作っていった。

縄文人のじゅ命は、何才くらいだったのかな?

●遺骨からわかる年齢

死んだ人の年齢は、発掘された遺骨を調べるとわかる。

縄文時代の人骨のうち、五才以下の乳幼児のまい葬者の骨が多く、大人のまい葬者の骨も四十才前半の壮年期のものが多い。

●縄文人の平均じゅ命は二十才前後

こうして調べた縄文人の平均じゅ命は、五才以下で死亡した乳幼児のデータを加えると、たいたい二十才前後になるといわれている。

薬も食べ物も限られたものしかなかった時代のことだ。天災や病気、栄養不足などで、縄文時代の人々の生活は、まさに死ととなり合わせだったといえよう。

▼当時のまい葬は屈葬だった。

(屈葬…手足をおり曲げてまい葬する)

▲目を大きくした土偶。 文化庁

Q 土偶は、いったい何のためにつくられたのかな？

A

●神が土偶に乗り移る

日本の縄文時代の土偶は、ユーラシア大陸に約二万年前に現れた女神像の伝統を引くものだ。この女神像は象牙、骨、ねん土などでつくられ、子供を産む女性の力のい大さから、自分達の食料の豊産を祈るためのものであったらしい。

この女性の素焼きのねん土像に巫女が祈りを捧げると、天上から神がこの土偶に乗り移り、病魔を退散させる儀式などにも使われたようだ。

人以上の力のあるものにするために、目を大きくしたり、オオヤマネコの顔にしたりした土偶もある。

また、動物の形を模した土偶もつくられていた。

貝塚とは、いったい何なのかな？

●貝塚はむかしのごみ捨て場か？

縄文人は、おいしい貝をたくさんとって食べていた。ハマグリやアサリなど、場所や季節によって多くとれるので、貝塚には同じ種類の貝がらがかたまってたい積していることもある。

貝塚からは、土器やアクセサリー、それに人間のまい葬骨も発見される。

貝塚は再生を願う祭りの場でもあった。人間の再生と、食料となったけものなどが再び食料に生まれ変わってくれるように祈ったのだろう。

だから貝塚には、当時の生活を知る貴重な資料がたくさんうまっているわけだ。

▶貝塚の断面。無数の貝がらが見える。（加曽利貝塚博物館）

大むかしのくらし　年表とまとめ

年表の見方

1世紀	紀元前1世紀
紀元一〇〇年	紀元元年	紀元前一〇〇年

●西暦紀元元年

キリストが生まれたと考えられている年。この年より前を紀元前、その年以降を紀元と呼ぶ。

紀元元年は西暦のスタートでもあり、西暦一年ということになる。

●世紀

百年を一区切りにしたもので、一世紀は、紀元元年から一〇〇年の百年間のことだ。

現在の二十世紀は、一九〇一年から二〇〇〇年までの百年間のことで、二〇〇一年からが二十一世紀になる。

時代	人類が登場したころ
世紀	
西暦	前二百万年ころ
おもなできごと	●このころ地球上に人類の祖先が現れたらしい。(日本にはまだ人類は、現れていない。)

【縄文人が生きた時代】

①縄文時代と呼ばれる期間

縄文土器を使っていたころ——今から一万年〜二千年ほど前の、約八千年間をいう。

時代	世紀	西暦	おもなできごと
人類が登場したころ	旧石器時代	前百万年ころ	●日本列島はアジア大陸と陸続きだった。
		前五十万年ころ	●明石原人などが現れる。
		前一万年ころ	●簡単な石器を利用した三ケ日人などが現れる。
縄文時代			●縄文土器がつくられ始める。(かりや漁をしながら、たて穴式住居に住んでいた。)
		前六千年ころ	●日本列島が現在のような形になる。
		前三〇〇年ころ	●このころから、米作りが始まる。

②この時代の食べ物

イノシシやシカなどの動物、海や川でとれる魚や貝類や海草、木の実などをとってきて、にたきして食べていたようだ。

③この時代の道具

石のナイフや石おのなどの石器、シカの角や骨などでつくった骨角器があった。縄文土器は、主としてにたきなどに使われた。

④この時代の住まい

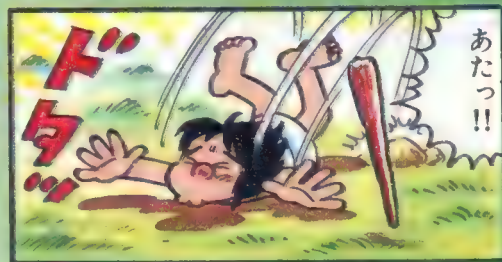
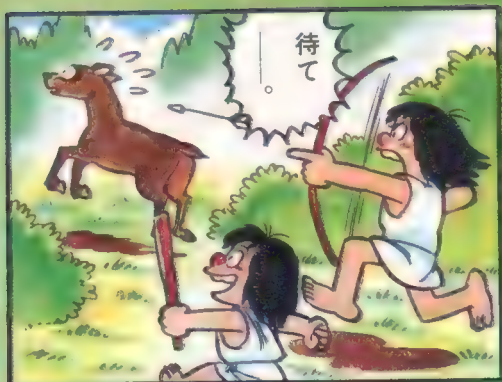
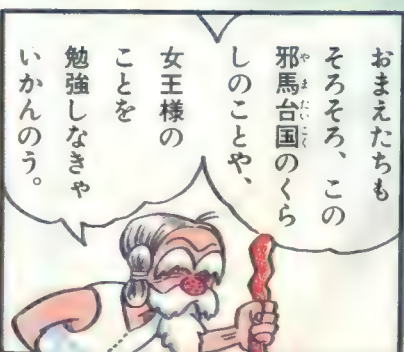
地面を少しほり下げた小屋(たて穴式住居)に住んでいた。食べ物がなくなると、ほかの土地へ移り住んだ。

第2部 日本の国のなりたち

米作りが伝わり、くらしは大きく変わった。人々は水田近くに住みつき、集落もしだいに大きくなった。

人物まんが

卑弥呼を読む前に

今から千八百年ほど前、卑弥呼という女王がくにを治めていたという。そのころの人々のくらしはどんな様子だったか、また、卑弥呼はどのようにしてくにを治めていたか、見てみよう。

わっはははは……
これからの時代は、かりより米作りを覚えなくちゃいかんぞ。
じっちゃん。
おれ、たんぼの仕事なんかいやだもんね。

卑弥呼様も米作りに精を出すように言われておる……。
卑弥呼？だれ、それ？

われらのくにの女王様じゃ。わしらが平和にくらしていけるのも、女王様のおかげじゃぞ。
知ってるか？
しらん
……

おまえたちもそろそろ、この邪馬台国のくらしのことや、女王様のことを勉強しなきゃいかんのう。

さあ、ついておいで
……。

人物まんが

まぼろしの女王 卑弥呼

絵・人見倫平

小さなくにがしだいにまとまって、大きなくにになっていった。その一つ、邪馬台国には、神のお告げでくにを治める女王卑弥呼がいた。

(29) 日本の国のなりたち

二 さかんになる米作り

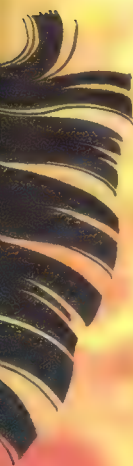
見てごらん、みんながんばっているだろう。

どろに足がもぐらないように、田げたをはいて…と。

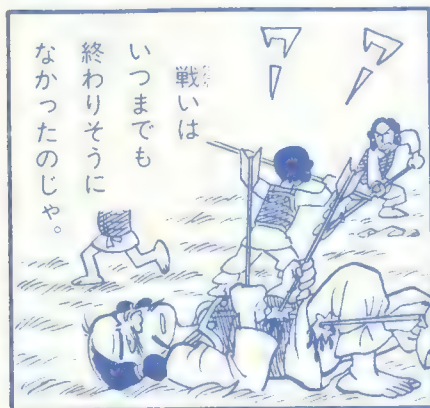
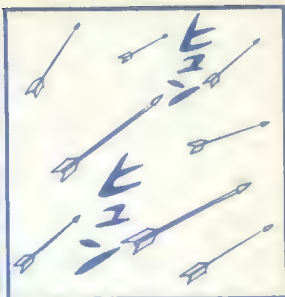
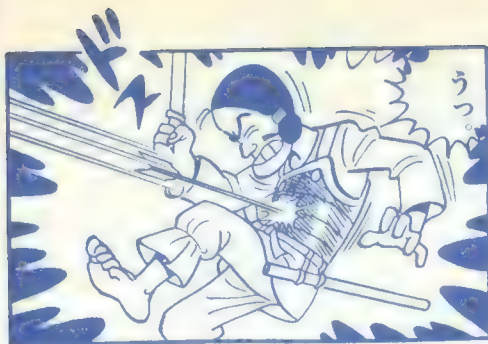
たぶね

田げた

矢板→

あぜがくずれないように、矢板を直そう。

高床式倉庫
ねずみがえし
取り入れの様子
石ぼうちょう
なえを作らず、田に直接種もみをまくのよ。
じゃあ、このどんぐりの実もまいてみよう。
あほ〜
やめとけ！
木製のくわ

二 神のお告げを聞く女王

雨ごいや、米の豊作を神様にたのむ、まじないしのことさ。
ふーん
病気を治したり、戦争の勝ち負けをうらなったりもするのじゃぞ。
戦争といえば、卑弥呼様が女王になる前、この辺りのくにぐにには争いが絶えなくてのう。
たんぼに引く川の水を取りもどすんだ!!
おーっ
おーっ
よくも川の水をせき止めたな!!
何を言う。日照り続きでわしらも命がかかっているんだ!!

矢じりのささった人骨

山口県の土井ヶ浜遺跡（弥生時代前・中期）から、体に十五もの矢じりをくいこませた男の人骨が発くつされている。

いさましく戦って倒れた勇者なのかもしれない。

いずれにしても、このころには、武器としての弓矢が広く使われていたことを示している。

（土井ヶ浜考古館蔵）

ある日、それぞれの国の王たちが集まって話し合いをした。
このままでは、ぎせい者が増えるばかり。
たんぼがおろそかになって、米の収かくは減るし…。
何か名案はないものか……。

そうじゃ！卑弥呼という大変すぐれた巫女がいる
そうじゃ。その巫女にわれらの女王になってもらい、邪馬台国を治めてもらおう。
異議なし！

……ということなのでお願いします。
わかりました。
では、これからはわたしの言うことに従ってください。

わたしは神の言葉をこの弟に伝えます。みなさんは弟の指示を受けてください。

では、さっそくわしらが幸福になるには、どうすればよいか神に聞いてもらいたい。

いいでしょう。

なんたら

……

かんたらこりたらホイホイ

テケレッツのパー——!!

その年の秋

女王様のおっしゃる通り豊作じゃ。

女王様の言うことは何でもズバリ当たる。

女王様ばんざーい。

邪馬台国ばんざーい。

こうして卑弥呼様が女王になってから、争いごとはピタリとやみ、平和になったのじゃ。

ふーん。

三　中国へ使いを送る

何年かの後
女王様
大変です。
狗奴国が
国境へ
せめてきた
そうです。

すぐ兵を集めて
むかえうちなさい。
大じょうぶ
です。戦いは
必ず勝ちます。
はっ。

うわっ、
狗奴国は
手ごわいぞ。

ひるむな。
女王様は、必ず勝つと言われたぞ――!!

ワーッ

むむ……
邪馬台国め
なかなか
しぶといわい……。

ええーい
退きゃくだ!!

わが軍の大勝利です。
あっははは……
これで狗奴国もこりたでしょう。
いいえ、とんでもありません。

兵力を整えてまた必ずおそってきます。
えっ。

中国の魏へ使者を送り、邪馬台国の後ろだてになってもらいましょう。

このころ中国は、魏、蜀、呉の三つの国に分かれていた。卑弥呼はその中でいちばん力のある魏と親しくしようとしたのだ。
そうすればいかに乱暴な狗奴国でもうかつに手出しはできぬはず。

そして、魏の皇帝への使節が旅立った。

へえー、外国旅行か、おれも行きたいな。

あほっ。船の旅は命がけなんだぞ!!

一行は友好国の伊都国を過ぎ、末盧国から船に乗り…

壱支から対馬の国を経て、朝鮮半島へわたり…

やっとの思いで、魏の都、洛陽へたどり着いた。

そなたたちが倭(日本)の国からわしにけん上品を持ってきた者か。

はるばるご苦労であった。

魏の皇帝は、卑弥呼に金印、織物、銅鏡などをおくった。

（東京国立博物館）

中国から伝わった鏡

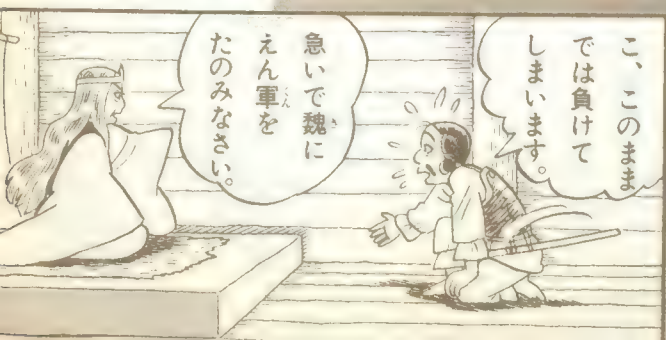
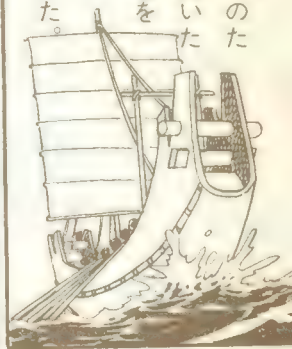
このころ中国から伝えられたものの一つに銅鏡がある。大阪府和泉市の黄金塚古墳から出土した銅鏡(写真)もその一つで、「景初三年……」(景初は中国の年号で紀元二三九年。卑弥呼が魏に使いを送ったとされる年)の文字がきざまれている。

四 卑弥呼の死

その後も
両国の間で
何度か使者の
やりとりがあり、
魏の後ろだてで
邪馬台国に平和な
日々が続いた。

しかし、魏の力が
おとろえた時
のこと……
今度こそ
邪馬台国を
たたきつぶす
ぞ――っ!!
狗奴国は
前よりいっそう
強くきたえた
兵で、おそい
かかった。

こ、このまま
では負けて
しまいます。
急いで魏に
えん軍を
たのみなさい。

（44）

卑弥呼のたのみを聞いた魏は使者を日本に派けんした。

魏の使者がこの黄幢(黄色の旗)を持ってきてくれました。

これがあれば勇気百倍。狗奴国もひるむはずです。

それー、われらには魏がついているぞー!!

しかし、
その戦いの
最中に……

た、た、
大変
でーす。

何だ
どうした?
じょ、
女王様が〜〜

えっ……

女王様が
おなくなりに
なっただと
——!!

あ〜あ
女王様〜〜
わしらは
これから
どうすれば
いいのですか。

人々は
なげき悲しみ、
大きな墓をつくり、
・・・みそぎとおはらい
が行われた。

卑弥呼が死んだ後は、
昔のように男の王を
立てたが・・・

くにの中が
治まらず、
敵味方に
分かれて争う
ことになり、

この戦いで
千人以上が
死んだ。

うーむ
・・・・・・
やはり、
卑弥呼様の
あとつぎで
なければ
いかんのう。

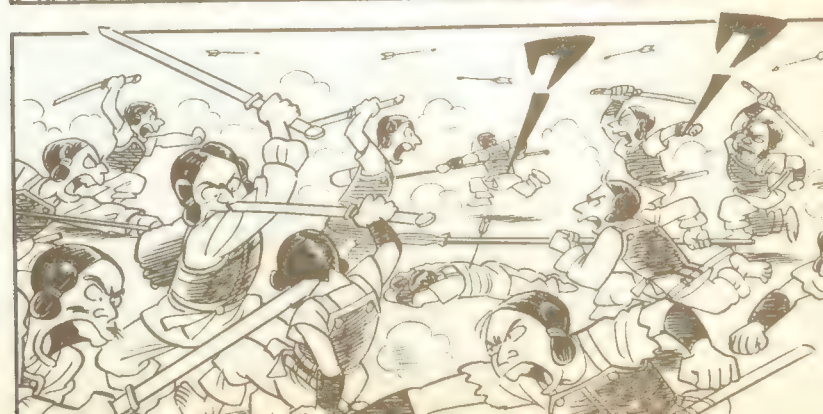
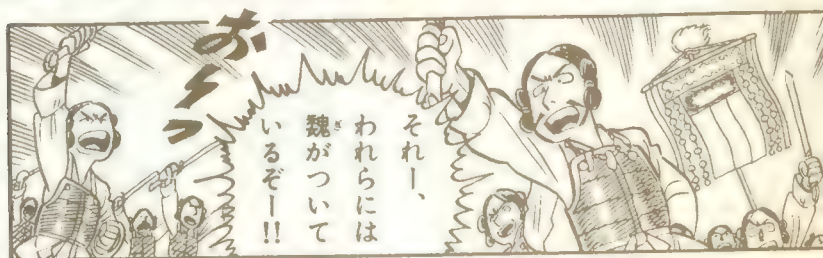
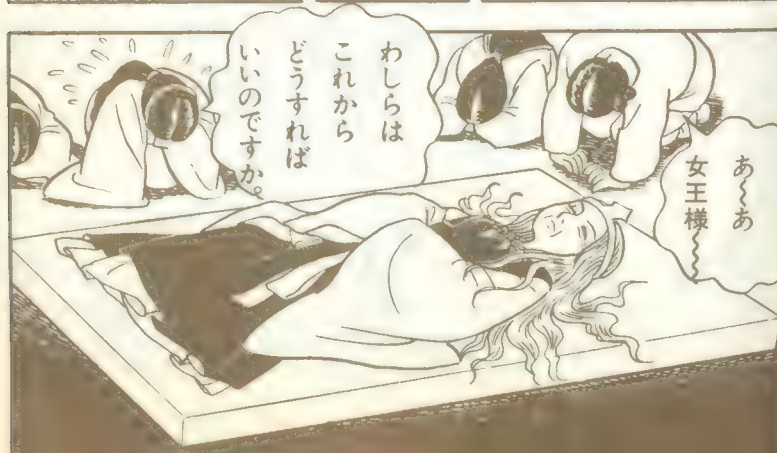
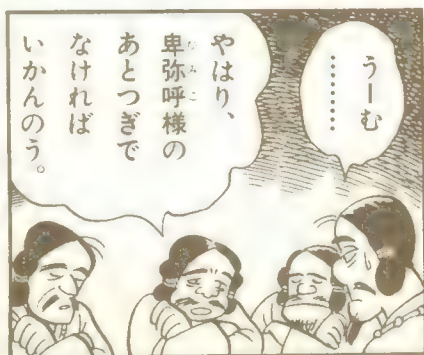
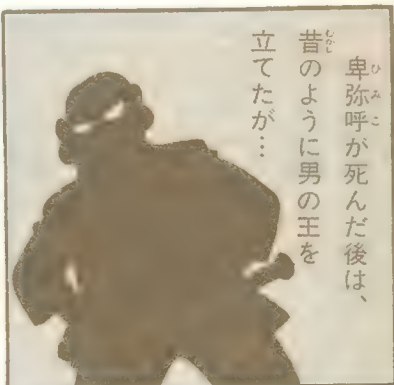
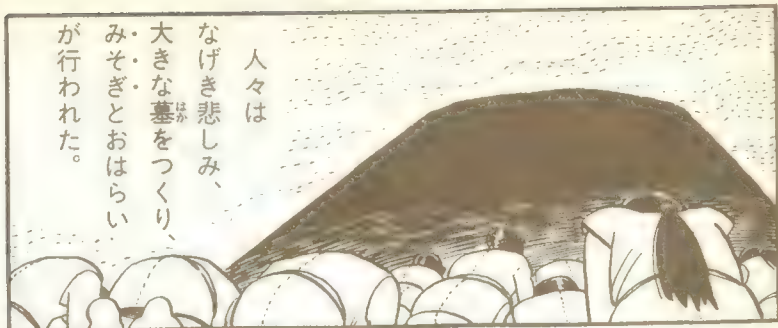
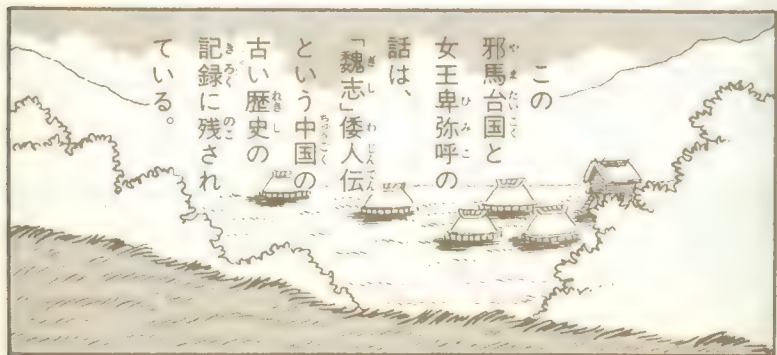
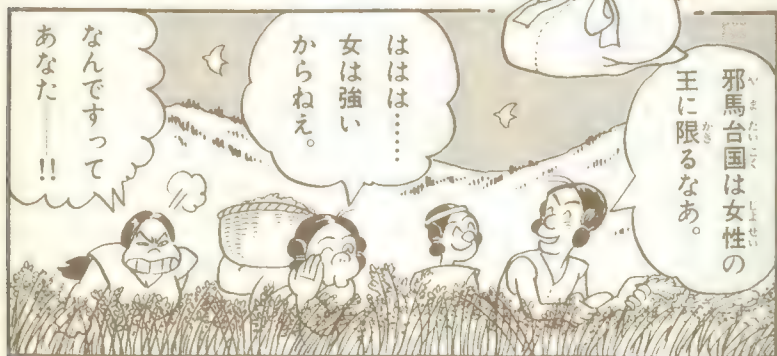
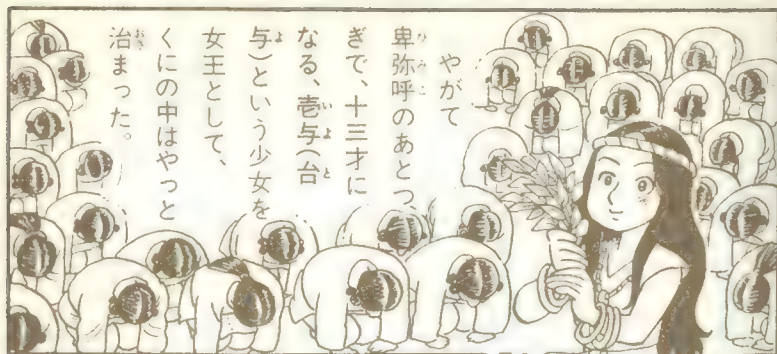
やがて卑弥呼のあとつぎで、十三才になる、壱与(台与)という少女を女王として、くにの中はやっと治まった。

邪馬台国は女性の王に限るなあ。

ははは……女は強いからねえ。

なんですってあなた——!!

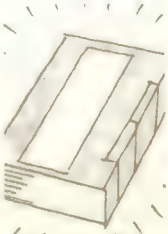
人物まんが卑弥呼のまとめ

一

このころは、神のお告げがくにを治めるのに大きな役割を持っていた。邪馬台国の女王、卑弥呼は、神のお告げを聞くことができる巫女であったといわれる。

二

邪馬台国は、小さなくにが集まってできたくにで、もとは男子が王だった。後に、卑弥呼が女王になり、うらないでくにを治めた。近くには、対立する狗奴国などがあったという。

三

このころ、中国には、魏・蜀・呉の国があったが、邪馬台国と卑弥呼のことは、中国の歴史の本、「魏志」倭人伝（三国志魏書東夷伝倭人条）に書かれている。

四

卑弥呼の治めた邪馬台国の位置は、魏志倭人伝の解釈の仕方によって、奈良県とする「畿内大和説」や、福岡県とする「北九州説」などがある。これは、歴史上の大きななぞとされている。

日本の国のなりたちQ&A

Q

弥生人は、米をどのようにして食べていたのかな?

A

●蒸して食べた古代人

古代人は、「こしき」と呼ばれるせいろで、米を蒸して食べていた

このころの米は、もみだけを落とした玄米だったので、蒸すのに適していたのだ

●たいたごはんは「粥」

古い文献にある「飯」は、蒸した米だといわれている

今のごはんに当たるものは、「粥」とされていた

▼遺跡から出土した米

(国学院大学考古学資料館)

石ぼうちょうに穴があけられているのは、なぜかな？

（東京国立博物館）

▼石ぼうちょうは、にぎるように持ち、刃先(上)で稲の穂をつみ取った。

●三種類の石ぼうちょう

米作りの初めには、くわのようにして使った石おのや、稲の穂先をつみ取るための石ぼうちょうなどがつくられた。

石ぼうちょうには、刃が外へそっているもの（北九州地方に多い）、刃がまっすぐなもの（南九州や四国・中国地方に多い）、刃が内側に曲がっているもの（近畿地方に多い）の三種類がある。

●ひもを通して使われた

どれも、二つの穴にひもを通して手に結びつけ、手と石の間に木や布を当ててにぎり、稲の穂先をつみ取った。当時は、稲かりをせず、水田に入って稲の穂だけをかる取り入れだった。

銅鐸とは、どんなものなのかな?

●青銅製のつり鐘形

青銅製の銅鐸は、高さが四十〜八十センチくらいのものが多く、つり鐘を少しおしつぶしたような形をしている。たたいても、あまり音は出ないし、どれも人が住んでいたとは思えないような山のふもとに、ていねいにうめてあるのだ。

◀香川県から出土した銅鐸 側面にかりや農耕の様子がえがかれていて、当時の様子がよくわかる。

(東京国立博物館)

●近畿地方独特のもの?

なぜこのようなものがつくられたのか、何に使われたのかは、今のところはっきりしていないが、祭りに関係のあるものだったらしいという考え方が強い。

青銅器は、広く九州から近畿地方に分布しているが、銅鐸は近畿地方を中心に発展したようだ。このことも、銅鐸のなぞの一つとして歴史学者をなやませている。

Q 金印とは、どんなものなのかな？

A

●「漢委奴国王」の印面

金印は、一七八四年、筑前国（福岡県）の農民が田のみぞを改修しているときに見つけたものだ。

大きさは、一辺二・三センチの小箱にすっぽり納まってしまうくらいで、「漢委奴国王」という五つの文字がほられている。

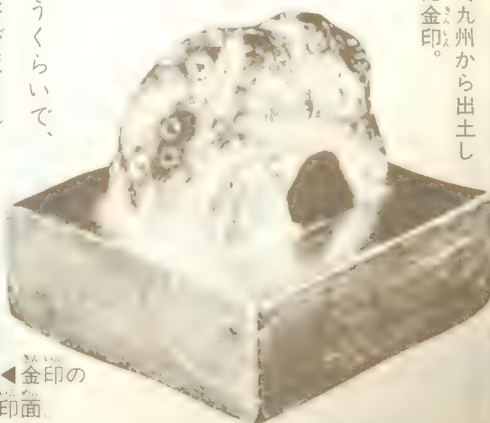
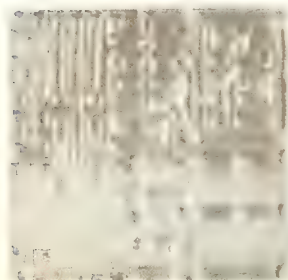
●すでに中国と交易があった

この言葉の意味は、日本が漢（中国）の国の家来であるということだ。

このことから、すでに中国と交易をしていたことがわかる。

◀九州から出土した金印。

◀金印の印面。

（福岡市美術館）

大和朝廷はどこにあったのかな？

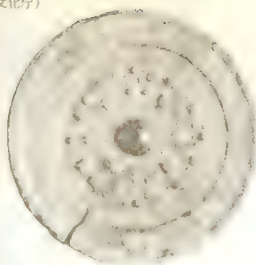
●奈良県の奈良盆地が中心

大和朝廷は、四世紀ごろ奈良盆地を中心とする大和地方を統一した政権である。後に日本の大部分を統一したが、国としてのまとまりの中心は奈良盆地にあった。

●大和朝廷は連合政権

大和朝廷は、有力な豪族たちが大王（天皇）を頂点にしてまとまった連合政権だった。有力な豪族たちがさらに勢いの強い豪族を中心にして、一つの国としてまとまっていったもので、その中心になった豪族が、皇室の祖先といわれる。

大和朝廷は、内乱をしずめたり、また大陸から進んだ文化を取り入れることにも努め、次第に国家としてのしくみを整えていった。

▶当時の日本の中心は、奈良盆地にあった。盆地周辺には、天皇の宮跡、墓などがたくさん集まっている。

古墳は、だれの墓だったのかな？

●古い大きな塚——古墳

古墳は三世紀末から、大和を中心に近畿地方でつくられ始め、やがて各地に広まった。墓には、棺のほか、鏡や剣、玉をはじめ、鉄製の農具・工具なども納められている。

●古墳は強力な豪族の墓

大きさや副葬品などから、古墳は強力な豪族の墓だったと考えられる。

前方後円墳は日本独特のもので、後円部に棺を納め、前方部ではほうむった人の祭りをしたのだろうと考えられている。

（文化庁）

▲副葬品として出土した鏡。

▼仁徳陵古墳（大山古墳・上）と履中陵古墳（下）。ともに前方後円墳だ。

日本の国のなりたち　年表とまとめ

時代	弥生時代			
世紀	前三世紀	前二世紀	前一世紀	一世紀
西暦	前三〇〇～二〇〇年ころ		紀元元年	五七
おもなできごと	●米作りが始まり、弥生土器がつくられる。 ●大陸から鉄器・青銅器が伝わる	（貧富の差が生まれ、強いむらが弱いむらを従え、小さなくにをつくる。）	●キリストが生まれる。	●倭奴国王が中国に使いを送り、皇帝から金印を受ける。

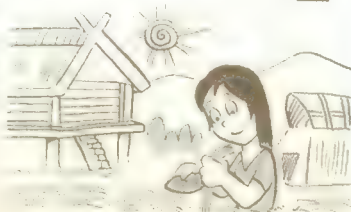
【弥生文化と古墳文化】

①米作りのえいきょう

紀元前三世紀ごろから米作りが始まると、人々は水田の周りに定住するようになった。やがて、身分や貧富の差も生まれた。

②卑弥呼と邪馬台国

卑弥呼は、三世紀ころ邪馬台国の女王となり、三十あまりのくにぐにを従えていた。

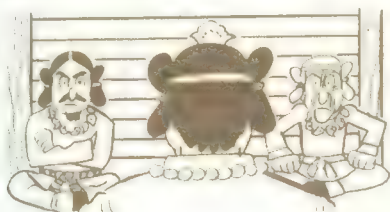
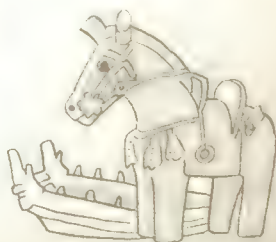
しかし、邪馬台国が日本のどこにあったかなど、くわしいことはよくわかっていない。

時代	弥生時代		大和時代	
世紀	2世紀	3世紀	4世紀	5世紀
西暦	一八〇ごろ	二三九	三五〇ごろ	四三〇ごろ
おもなできごと	●卑弥呼が邪馬台国の女王になる。	●卑弥呼が魏(中国)に使いを送る。(日本が一つの国にまとまり始める。)	●大和朝廷がほぼ全国を統一する(各地で古墳がさかんにつくられ始め、中国から鏡などが伝わる。)	●仁徳陵古墳がつくられる。(大陸から漢字や儒教が伝わる。)

③古墳とはにわ

豪族(王)の墓が古墳で、三〜六世紀にかけてさかんにつくられた。古墳から出土するはにわや副葬品からは、当時のくらしの様子などがうかがわれる。

④大和朝廷

奈良盆地を中心にした大和の豪族たちは、四世紀の中ごろまでに、西は九州から、東は関東地方まで従えたといわれる。

この政権を大和朝廷と呼び、その中心になるのが天皇であった。

第3部
貴族の世の中
八世紀になると、奈良に大きな都が造られ、八世紀末には京都に都が移されて、貴族の時代が花開いた。

ぼくたちは
今からおよそ
千四百年前ごろの
大和時代の
子どもだよ。

このころは、
強い豪族を
中心として
まとまった
大和朝廷の
時代だけど、
まだまだ豪族
の争いが
くり返されて
いたんだ。

そして
ぼくたちが
ほこる
偉人が
登場するん
だ!
キラッ
キラ
キラ

その名は聖徳太子
太子は、十人の人のいろいろちがったうったえを一度に聞き分け、正しく答えたという、すごい人だったよ。
この聖徳太子が日本の国づくりのために、どんな理想を持ち、どんなことをした人なのか〈人物まんが〉を読んで読み取ってね。

人物まんが

国家の形を整えた聖徳太子

豪族たちは勢力を強めて国の政治の実権をにぎるまでになったが、摂政になった聖徳太子は、理想の国づくりを考えていた……。

崇峻天皇

推古天皇

聖徳太子
物部守屋
小野妹子
法隆寺の五重塔
蘇我馬子
蘇我蝦夷

ぼくのうちは蘇我氏の田を耕す仕事をしているんだ。
大豪族の蘇我氏一族の屋しきはりっぱだが、わたしの家はまだたて穴式住居なんだ。

この鉄の刃がついたすきも能率がいいぞ。
でも、この農具も蘇我氏に借りているんだよね。
ザ
ザ
ク
ク

蘇我氏は、朝鮮半島の渡来人をつかって鉄の農具を作らせたり、
大きな用水池を作らせて、田をどんどん広げているんじゃや。

蚕をかって絹の織物だって作ってる。
でもこれ、み～んな蘇我氏一族が着るのよ。

二 うまやどの皇子誕生

五七四年
橘豊日皇子（後の用明天皇）の宮殿
あれっ、あいたたた……

おきさきさまがおめでたですよーっ。
ヒヒ〜ン

玉のようにかがやいた皇子じゃ。

馬小屋の前で産気づかれたので、うまやどの皇子と名付けられたのね。

中国より遠い
国の聖人
(キリスト)も
馬小屋で
お生まれになった
そうじゃ!
この子は
聖人に
なるぞーっ。

五才のときには、
百済から来た
お経を
すらすら読めた。
毎日千字ずつ
書いて、
三年後には
大人より上手な
字を書いたそうよ。

ヒヒ〜ン
スポーツは
万能。特に
乗馬は
ウマかったよ。
うまやどの
皇子です
もーん。

このひろーい田は全部蘇我氏の土地だ。

こっちのは天皇家のたんぼよ。同じくらい広いわね。

蘇我氏や物部氏のような大豪族は、天皇と同じくらいの農地と人々を持っていたんだよ。
オッホン

物部氏は
軍事や
裁判権を持ち、
朝廷では
大きな力を
持っていたんだ。
そこへ
大陸の文化を
どしどし取り入れて
勢力をのばして
きたのが
蘇我氏だよ。

わが
蘇我氏
は、
財政や
外交の力で
大きな力を
たくわえた。

そして
両者は、
仏教を
めぐって
親子二代
争っている
んだよ。

仏教反対！外国の神、仏像なんか拝むなっ！
仏教賛成！大陸の進んだ文化を取り入れるべきだ。

寺を建て、仏像を拝む許しを天皇からもらった。

ところが、間もなくえき病がはやった。
仏教のせいだっ。

天皇の許しが出た。寺を焼き、仏像を捨てろ。
う〜〜ん物部氏め〜〜っ。

太子が十四才のとき、父の用明天皇が亡くなると、次の天皇の位をめぐって両者激突！
バチバチバチッ
物部守屋
穴穂部皇子
蘇我馬子

太子さま、大変です!!

蘇我馬子どのが穴穂部皇子を討ち取り、物部氏せいばつの軍を！
ついに!!

太子の一族と親せき
物部守屋が天皇におし立てようとした穴穂部皇子は、蘇我馬子のおいに当たる。
わしも仏教のことで物部と争った。
蘇我稲目
わしも…
馬子
蝦夷
入鹿
用明天皇(太子の父)
(太子の母)
崇峻天皇
穴穂部皇子
(太子のおば)
推古天皇
聖徳太子
竹田皇子
彦人大兄皇子
蘇我氏は娘を天皇のおくさんに
して、力をのばしたのか。

おいで
あろうと
だれで
あろうと、
物部氏に
味方する者
は討たねば
ならん。

穴穂部を
討たねば、
ぎゃくに
天皇の位に
つくのに
じゃまな
あなた方
皇子たちは、
まとめて
消されていたで
しょうね。

争いは仏教の
教えに
そむくの
ではありま
せんか。
しかし、
仏教を
広めるには
反対の勢力を
討たねば
ならんの
です。

わかりました！物部氏を討ちましょう。
そうこなくっちゃ。

五八七年河内渋川(大阪府)で蘇我軍と物部軍は戦った。

戦が専門の物部軍は、さすがに強いな！
また退きゃくしてきた……。

このままでは、
どっちに味方
しようかと
迷っている
豪族どもが、
物部軍について
しまうぞ…。
よしっ。

四天王の
像を
ほって……

かんむりに
つけ、
この戦は
仏教を守る
ための戦だと
いうことを
表そう。
オッ

四天王さま、
この戦に
勝たせて
いただければ、
四天王寺を
建てることを
ちかいます。
オ〜〜ッ
オ〜〜ッ
こんどは
勝てるぞう。

勝った!

父上!
これで仏教が
さかんになり、
平和がくるで
しょう。

四天王
さまに
願いが
とどいた
のだ!

三 わがままをふるう蘇我氏

馬子は穴穂部皇子の弟を天皇の位につけたのよ。
崇峻天皇と呼ばれる方だね。

馬子は天皇よりいばっているね。
わしが天皇にしてやったからなあ。

どちらが天皇だかわからないね。

くそーっ。わしはロボットか。
ブルブルブル

政治のことでも、天皇の意見が通らない。
馬子の意見で政治が動いた!

家来のくせに無礼な。力のないわしをばかにしおって。

天皇さま、かりでしとめました。

わしの大きらいなあやつめの首を……。
このように切り落とせたらなあ。ヒッヒッヒッ。
ドサッ

なに!

天皇がわしの首をのう……。
それにむほんの計画もあるとか。

よし!先手必勝!消えてもらうか…やれっ。
はっ。

大変です!
崇峻天皇が何者かに暗殺された!
しかも馬子は、犯人を裁判もせず、すぐに殺してしまったと……。
口ふうじか…。

崇峻天皇を位につけたのは失敗じゃったわい。

こまったな！天皇の位にだれをつければよいか。
候補は三人ですね、父上。

その一人彦人大兄皇子は……。
だめだっ!! 蘇我の血がつながっとらん！

竹田皇子は？

うまやどの皇子は？

わしのめい(後の推古天皇)が産んだ皇子じゃが、まだ年が若すぎる！

わしのめい(穴穂部間人皇女)の子じゃが、頭が良すぎていかん。

わしに都合のいい天皇……
そうじゃっ
いたぞっ

わしのめいで竹田皇子の母、うまやどの皇子のおばに当たる女性!
女の天皇は初めてだが、グッドアイデアだ。これでいこう!!

というわけで、天皇になってください。
えっ!!

女の
わたくしには
責任が
重すぎますわ。
わたしが
後おしいたし
ますから…

みんなも
お願い
するのじゃ。
お願いしま〜〜〜す。

困り
ましたね…。
わかりました。
お引き受け
しましょう。
ま〜す。
ありがとう
ございま〜〜〜す。
ペコリ
ペコリ
ペコリ

うまやどの皇子を摂政にしていただきます。

ええっ。

摂政というのはね、天皇に代わって政治をとる位で、日本で最初にこの位についたのが太子なんだよ。

賛成です!
皇子も二十才になられた。
仏教にはむろん、孔子さまの儒教にもくわしい方だし。

若いのにみんなの尊敬を集めておられる。
頭が良く人気のある太子に政治をとらせてはまずいのだ。

ぴったしですな。
決定!

そうですか。みんなが賛成してくれてほっとしました。

五

あ！
太子さまだわ。
摂政になって
いそがしく
なられた
ようね。

いねの
できは
どうかね。
はい
おかげ
さまで、
今年は
豊作で。

やさしい太子
さま。いつも
しもじもの
われらを
気にかけて
くださるのだ。

きっとわれわれのためにも、いい政治をなさってくださるだよ。
まず役人を引きしめるために、冠の色で位の上下を決められるそうじゃ。

ごらんよ、ほんとうだ。役所へ向かう、役人の冠が！
わあ、きれいね。十二色もあるのね。
ゾロ
ゾロ
ゾロ

冠位12階の制度

色によって位の上下が決められているんだよ。

大徳 むらさき
小徳 うすむらさき
大仁 青
小仁 うすい青
大礼 赤
小礼 うすい赤
大信 黄
小信 うすい黄
大義 白
小義 白
大智 黒
小智 うすい黒

今まではわしが勝手に役人を決めていたのに…。
役人の位は、その子がそのまま受けつぐということをできなくしたのです。

家がらが良くても、能力がない息子には役人の務めが果たせないからです。
ぐやじいが太子の意見は正しいので、反対はできんわい。

馬子もやりたい放題ができなくなったわね。
さすが太子さまだ!

六 十七条の憲法をつくった

六〇四年

太子はこんど十七条の憲法をつくられたそうよ。

何だいそりゃ？

(第二条)仏教を一心に信仰しなさい。
お経

太子は仏教を広め、平和な国にしようと考えたのね。

(第三条)天皇の命令を受けたら必ず従いなさい。

天皇の力を強めるためのものだな。

(第十二条)役人は勝手に人民から税を取り立ててはいけない。

これが守られれば、人民は楽になるな──。

わしの理想の国づくりはこうだ!

今まで

豪族たち

天皇

蘇我氏

土地と民

天皇

役人 役人 役人 役人 役人 役人

天皇の土地と民

七
仏教を広め、国をまとめようとした

太子は仏教を広めて、争いのない平和な国にまとめようとされたのね。
コン コン コン
カン カン カン

摂政になると、すぐに四天王とのちかいを守って四天王寺を建てられたし、
コリ コリ

合計七つの寺を建てられたよ。
その中でも亡き父、用明天皇のために建てられた法隆寺は有名ね。

法隆寺…大和の斑鳩（奈良盆地の南部）に建てられた。

このように太子は仏教をさかんにされたので、仏教といっしょに外国の文化がどんどん日本へ入ってきたのね。

ギリシア文化

ガンダーラ美術

ペルシア文化

仏教たん生

インド

敦煌

中国文化

百済

日本

八 隋との外交に力をそそいだ

太子がお生まれになる少し前に、朝鮮半島にあった任那が新羅にほろぼされたんだ。
高句麗
新羅
百済
朝鮮半島
任那
日本の役所があった。

先々代の天皇の遺言通りこれを再建したいが、戦ではうまくいかなかった。
小野妹子

武力でなく、外交で平和を勝ち取ろうと思う。
ドーッ
ドーッ
ドーッ

日本国王
からの
国書（手紙）
を皇帝陛下
に！

日出ずる
ところの天子
日ぼっする
ところの天子に
手紙を
差し上げます。
お元気ですか……

なにいっ。

くーっ。
この煬帝を
日がしずむ
国の天子
だと!
ぶっ、ぶっ、
無礼なっ。

隋と対等に
付き合おう
とは、
生意気なっ。

これ
裴世清！
太子とは
どんな人物か、
そして日本の
国力はどの
くらいのものか、
そちの目で
確かめて
まいれ。
はっ！

小野妹子が
帰国するとき、
裴世清も
同行した。

ややっ、
日本に
こんな立派
な寺が
あるとは。

この方が
太子か！
立派な人物だ！
う〜〜〜ん。

日本は
かなり
文化が
高いぞ。
仲良く
する方が
利口だと
報告しよう。

裴世清が
隋へ帰国
するとき、
妹子を再び
大使として
送ったよ。

君たちは
留学生と
留学僧で
ある！
隋の
政治や文化を
しっかり
勉強してきて
くれ。
はいっ。

蘇我氏の
力が強い今は、
大改革は
無理だが……
留学生が
わたしのゆめを
実現してくれる
だろう。
たのむぞっ
留学生
たち！

九 太子なき後、蘇我氏再び横暴となる

馬子は
天皇気取りで、
どんどん
役人に命令を
下しているよ。

十七条の
憲法なんか
クソくらえ
じゃ。
ビリッ

六二六年
馬子も死んだ。

しかし、
蘇我蝦夷と
入鹿の
親子は
ますます
横暴になって
きた。
えっ
へーん。

太子が、
亡くなられて
六年目に
推古天皇も
亡くなられたよ。

次の天皇は
田村皇子さま
じゃ。

いや！ わしは
太子の子の
山背大兄皇子が
天皇に
ふさわしい
と思う。
わしに
逆らう
か！

蘇我一族だった
摩理勢も
蝦夷に反対
したので、
消されたよ。
おそろし〜〜。

わしに
たてつく
やつは
もういないな。
よし、天皇の
墓地や宮殿より
立派なものを造れ！
ギロッ

十 太子のゆめ、大化の改新で実現される

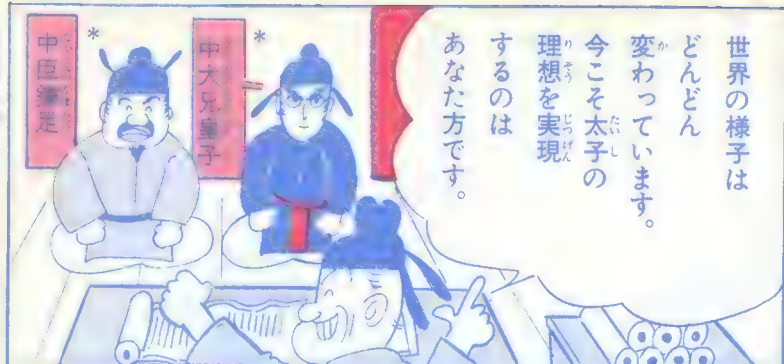
蘇我入鹿の横暴は、ますますひどくなり、太子の子の山背大兄皇子まで殺してしまったのね。

じゃま者は消す！

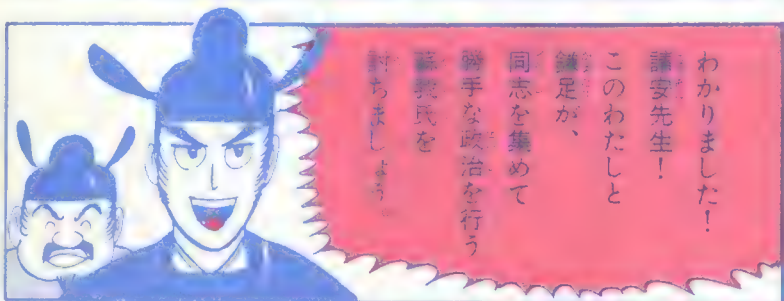
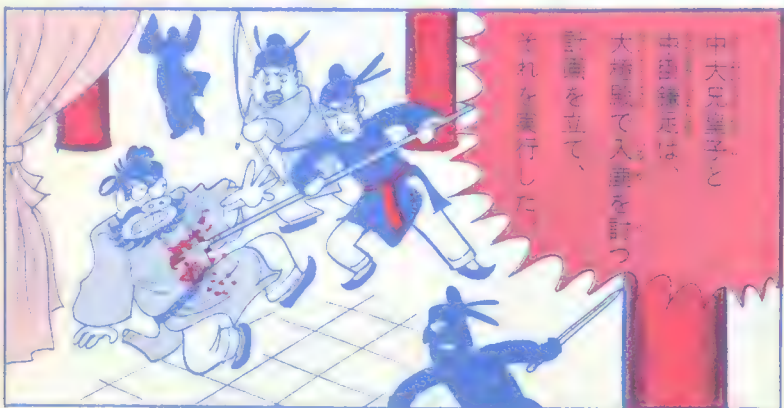
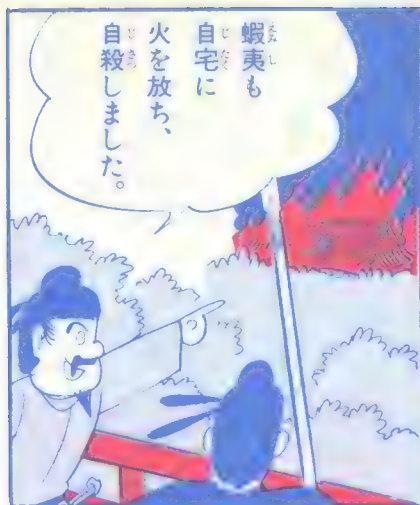
大陸でも隋がほろび、唐が天下を取ったよ。

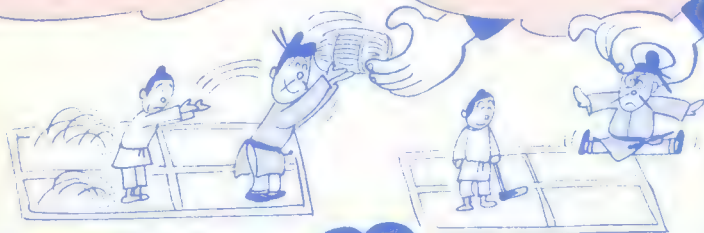
唐

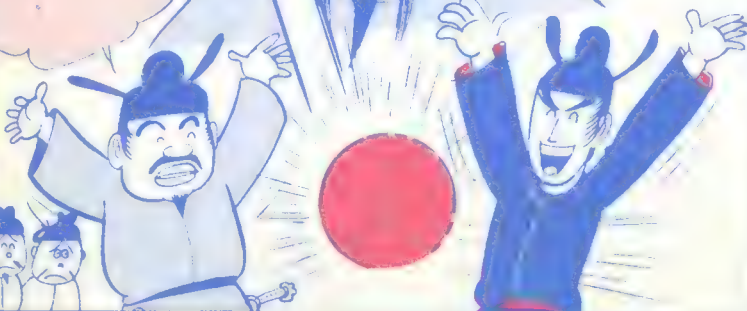
ポッキリ

中大兄皇子＊
中臣鎌足＊
世界の様子はどんどん変わっています。今こそ太子の理想を実現するのはあなた方です。

＊中大兄皇子は後の天智天皇で、中臣鎌足は後の藤原鎌足です。

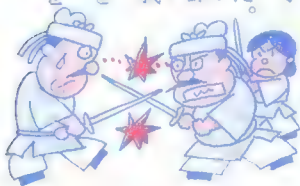
よし！大化の改新を行う。

まず、豪族が持っていた土地と民をすべて天皇のものとする！

その土地や民は、天皇が任命した役人によって治めさせる。

民には農地をあたえるかわりに、税をきちんと納めさせる。

そのためには、土地や人口を調べ、戸籍を作らねばならんぞ。

この大化の改新で聖徳太子が理想とされた天皇中心の国が今こそ生まれるのだ!!

人物まんが聖徳太子のまとめ

一　聖徳太子は、五七四年に用明天皇の子として生まれた。馬小屋の前でおきさきが産気づかれて生まれたと言われるので、うまやどの皇子と名付けられた。

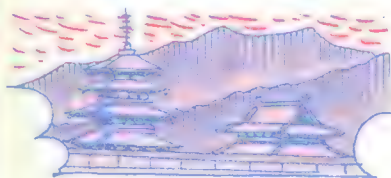
二　大陸から伝わった仏教を朝廷が信仰するかどうかをめぐって蘇我氏と物部氏の争いが起こったとき、太子は蘇我氏に味方をして戦った。仏教の信仰に反対した物部氏が敗れてほろんだが、蘇我氏は天皇とならぶ大きな力を持つようになり、国の政治を動かすようにもなった。

三　聖徳太子は天皇になれる立場にあったが、蘇我氏は自分の言うことを聞く、都合のよい天皇を決めていたので、選ばれなかった。蘇我氏が女帝・推古天皇を決めたとき、太子は日本では初めての、摂政という天皇に代わって政治を行う位についた。(五九三年)

四　太子は、天皇を中心とする国づくりをめざし、「冠位十二階」の制度を決め、役人の位を十二に分け、家がらにかかわりなく、すぐれた能力のある者が高い位につけるようにした。冠の色で位の上下が決められた。

五

太子は、六〇四年に「十七条の憲法」を制定し、天皇中心の国づくりをさらに進めた。太子はこの憲法で、仏教や儒教の考えを取り入れ、天皇の命令には必ず従うこと、仏教を尊ぶこと、政治はみんなで相談して決めることなどを示した。

六

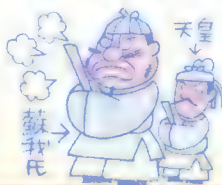
太子は仏教を保護し、信仰するようにすすめたので、わが国で最初の仏教文化が栄えた。六〇七年には大和の斑鳩(奈良盆地の南部)に法隆寺を建てた。法隆寺の中門・金堂・五重塔は、世界最古の木造建築と言われている。

七

太子は、小野妹子らを遣隋使として隋(中国)に送り、同時に多くの留学生や学問僧を送り、中国のすすんだ政治制度や文化を勉強させた。

八

六二二年、太子は四十九才でなくなった。太子の死後、再び蘇我氏が天皇をしのぐ力をつけ、太子が理想とする政治が行われなくなった。

九

天皇中心の政治を考える中大兄皇子たちが、蘇我氏に反対する人々を味方にして、六四五年に蘇我氏をほろぼした。この改革で聖徳太子のゆめが実現された。

〈貴族の世の中〉のおもな人物像

【推古天皇】 五五四〜六二八

日本最初の女性の天皇。崇峻天皇が蘇我馬子らに殺されたあと、天皇となる。聖徳太子を摂政として政治を行わせ、三十六年間位についた。

【聖徳太子】 五七四〜六二二

推古天皇の摂政となり、十七条の憲法や冠位十二階の制度を定め、遣隋使を中国に送った。また、仏教を深く信仰し、法隆寺を建てた。

【小野妹子】 六世紀末〜七世紀初め

六〇七年太子の命で遣隋使として聖徳太子からの国書を隋(中国)の煬帝に届けた。翌年、ふたたび遣隋使となり、留学生を連れて隋にわたった。

【蘇我馬子】 ?〜六二六

大和時代の豪族。聖徳太子とともに物部氏をほろぼし、太子を助けて政治を行ったが、太子の死後、政権をにぎり、思うがままに権力をふるった。

【蘇我入鹿】 ?〜六四五

馬子の孫。聖徳太子の死後、権力をにぎる。太子の子、山背大兄皇子を殺したため他の豪族の反感を買い、大化の改新で中大兄皇子らに殺された。

【中臣鎌足】 六一四〜六六九

中大兄皇子に協力して蘇我氏をほろぼし、大化の改新を行った。その手がらで天皇から「藤原」の姓をおくられ、藤原氏が栄える基礎となった。

【中大兄皇子】（なかのおおえのおうじ）六二六〜六七一

中臣鎌足らと蘇我氏をほろぼし、大化の改新を行った。のちに天智天皇となって、天皇中心の国づくりを進め、律令政治の基礎を固めた。天武天皇は弟にあたる。

【天武天皇】（てんむてんのう）？〜六八六

天智天皇の弟。天智天皇の死後、壬申の乱をおこし、天皇の子、大友皇子を破って位につく。天皇の権力を強めて律令政治を確立した。

【山上憶良】（やまのうえのおくら）六六〇〜七三三？

『万葉集』の代表的歌人。地方の役人をつとめ、学者としてもすぐれたところを見せた。「貧窮問答歌」のように、人々の生活苦や、妻子への愛情を歌ったものが多い。

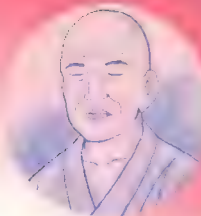
【行基】（ぎょうき）六六八〜七四九

奈良時代の僧。各地に橋をかけ、貯水池をつくるなどの社会事業を行う。東大寺をつくるのに協力したので、朝廷から日本最初の大僧正に任ぜられた。

【聖武天皇】（しょうむてんのう）七〇一〜七五六

奈良時代の天皇。仏教で国の平和を守ろうと考え、諸国に国分寺・国分尼寺、都に東大寺を建てて、大仏をつくったので、仏教文化が栄えた。

【光明皇后】（こうみょうこうごう）七〇一〜七六〇

聖武天皇の皇后。藤原不比等のむすめで、仏教を深く信仰し、施薬院や悲田院をつくって、病人や孤児を救うなど社会事業につくしたことで有名。

【鑑真】 六八八～七六三

奈良時代に唐（中国）からわたってきて、日本に住んだ僧。渡航のとき、目が見えなくなりながらも来日を果たす。聖武天皇に信頼され、唐招提寺を建てて仏教を広めた。

【阿倍仲麻呂】 七〇一～七七〇

奈良時代に唐（中国）にわたる。長安の大学で学び、役人の試験に合格し、玄宗皇帝に仕えた。帰国の船が難破して帰れず、一生を唐で終えた。

【桓武天皇】 七三七～八〇六

都を京都の平安京に移した天皇。律令政治をたて直すため、都を仏教と関係の深い奈良から移し、班田収授の法を改正するなど、きびしい政治を行った。

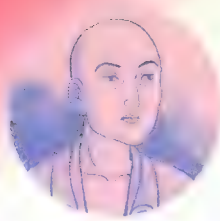
【坂上田村麻呂】 七五八～八一一

平安時代初期の武将。桓武天皇に征夷大将軍に任ぜられ、胆沢城・志波城（岩手県）を築いて、蝦夷征伐の指揮をとり、東北地方を平定した。

【最澄】 七六七～八二二

平安時代初期の僧。伝教大師。唐にわたって天台の教えを学び、帰国後、比叡山延暦寺で天台宗を開き、全国を歩いて教えを広めた。

【空海】 七七四～八三五

平安時代初期の僧で、弘法大師とも呼ばれる。最澄とともに唐にわたって真言宗を学ぶ。帰国後、高野山に金剛峯寺を建てて教えを広めた。書道家としても名高い。

【菅原道真】 八四五～九〇三

平安時代前期の政治家・学者。遣唐使を廃止するなど活やくしたが、藤原氏にねたまれ、大宰府(九州)に追われた。学問の神様(天神様)として祭られている。

【空也】 くうや(こうや) 九〇三～九七二

平安時代中期の僧。鐘をたたいて「南無阿弥陀仏」と念仏を唱え、浄土教を広めた。橋や井戸をつくるなど社会事業につくし、「市聖」と呼ばれた。

【藤原道長】 九六六～一〇二七

平安時代中期の政治家。三人のむすめを天皇のきさきとし、摂政となって政治を思いのままに動かし、子の頼通とともに、摂関政治の全盛期を築いた。

【藤原頼通】 九九二～一〇七四

藤原道長の子。父のあとをついで、三代の天皇の摂政・関白となり、摂関政治の全盛期をつくった。京都の宇治に平等院鳳凰堂を建て、「宇治関白殿」と呼ばれた。

【紫式部】 九七八？～一〇一六？

平安時代中期の女流作家で、『源氏物語』の作者。一条天皇のきさき彰子に仕え、その経験から宮廷生活を舞台に書いたのが『源氏物語』である。

【清少納言】 [illegible]

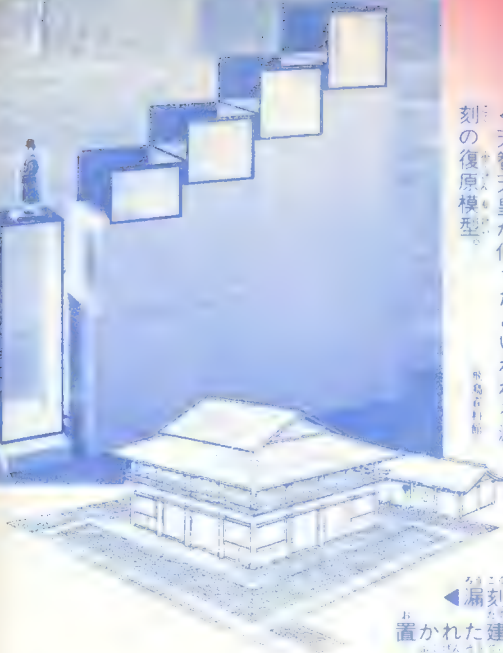
平安時代中期の[illegible]『枕草子』の作者。[illegible]きさき定子に仕え[illegible]

貴族の世の中Q&A

日本で最初の時計は、どんなものだったのかな？

◀天智天皇が使ったといわれる漏刻の復原模型。
飛鳥資料館

◀漏刻が置かれた建物の復原想定図。

A

●天智天皇が使った時計

日本最初の時計のことは、『日本書紀』に出ている。

それによると、日本で最初に時計を使ったのは中大兄皇子（のちの天智天皇）で、六六〇年に「漏刻」というものを用いて、時をはかったと伝えられている。

●小さな家くらいの大きさを持つ水時計

「漏刻」というのは、水で時をはかる水時計の一種だ。たいへんに大がかりな設備が必要で、当時でも小さな建物ほどの規模を

持っていた。
最近、奈良県の飛鳥水落遺跡から、古代の水時計の遺構が発掘され、「天智天皇の水時計か」と、新聞などで話題を呼んだ。

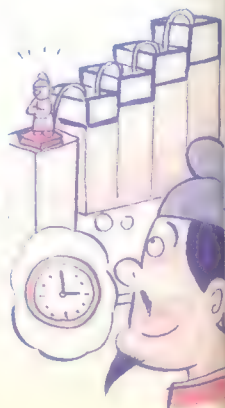
Q 大化の改新では、どんなことが行われようとしたのかな？

A

●四つの柱―公地・公民や班田収授の法など

中大兄皇子と中臣鎌足が、大極殿で蘇我入鹿を討った次の年（六四六年）、新政府は四か条の改新の詔を出した。

第一に、皇室や豪族の私有地や私有民を廃止して、すべて天皇のものとする（公地公民）。第二に京・畿内を定め、国・郡・里の行政区画を整えて、軍事・交通制度を整備する。第三に、ある年令に達した男女に、一定の面積の田をあたえる（班田収授の法）。第四に、新しい全国統一の税制を実施する。以上の四つが柱だった。

▲班田収授の法を行うために、土地を区画したあとが今でも残っている。（奈良県）

Q 租・庸・調とは、どんなものだったのかな？

A

●奈良時代の農民に課せられた税

奈良時代の農民には、大別して生産物で納める税と、労役で納める税の二種類があった。

租は、口分田の面積に応じて、その収穫の三〜五パーセント程度を稲でおさめる。庸は、都で十日間労役に従うかわりに、布二丈六尺（約八メートル）か、これにかわるものを納める。調は、地方の特産物などを納めるものであった。

租	収穫した稲の３〜５％程度を納める。
庸	都での労役のかわりに布などを納める。
調	絹・海産物などの土地の特産物を納める。
その他	兵役や雑多な労役など。

▶伊豆大島（東京都）から、かつおを調として出したとしるされた、木でできた荷札。

▲これはあわびの荷札。（木のかけらに墨書きしたものを、木簡という。）

Q 古代の田の、一反あたりのとれ高は、どれくらいだったのかな？

A

●田によって差があったとれ高

『延喜式』によると、上田一＊反から五十束、中田一反から四十束、下田一反から三十束、下々田一反から十五束の稲がとれるとしるされている。

稲一束は米五＊升になる。すると、上田一反のとれ高は二＊石五＊斗、下々田一反では七斗五升になる。

●少なかった収穫量

この時代の一反は、後の一反よりも面積が大きかったから、面積に対する稲のとれ高の割合は、後の時代よりも悪かった。

【注】当時の、一反…約千百平方メートル、当時の一…
約一・一リットル。一斗…十升 一…

遣隋使・小野妹子は、中国語を話すことができたのかな？

●通訳とともに中国へわたった

小野妹子自身は、中国語を話すことができなかった。

そこで通訳を連れていったのだが、そのことを『日本書紀』は、〝小野妹子とともに通事（通訳）の鞍作福利を隋に送る〟としるしている。

●仏師や通訳として活やくした渡来人

福利は渡来人で、仏師として名高い鞍作止利（鳥）と親せきだった。

福利は第二次遣隋使のときにも、小野妹子といっしょに通訳として隋にわたったが、そのまま隋にとどまって日本に帰国しなかったといわれる。

当時は朝鮮や中国からの渡来人が、朝廷や豪族たちに重んじられ、活やくしていた。

▶夢殿の救世観音像。

法隆寺

▲聖徳太子がめい想にふけったといわれている法隆寺夢殿。法隆寺は西院と東院に分かれており、夢殿は東院にある。

Q 法隆寺の夢殿の名のいわれは、何かな？

A

●聖徳太子が研究室で夢をみた？

法隆寺の夢殿は、八角形をしたお堂だ。聖徳太子がここにこもって、仏教の教えを研究していたという。

どう考えてもわからない、むずかしい問題にあって困っているようなとき、夜の夢に金色の人が現れて答えを教えてくれたという。「夢殿」の名のいわれだ。

●太子の等身像といわれる救世観音像

夢殿には救世観音像があるが、長い間秘仏だった。明治時代になって、フェノロサ（アメリカの学者）がこの観音を見たとき、すばらしさにため息をもらしたが、日本のお坊さんはたたりをおそれてにげ出したという。

▲蘇我馬子の墓といわれる石舞台古墳。一番大きな石は77トンもあり、大小30数個からできている。古墳の一部と考えられている。

Q 石舞台って、どんな舞台なのかな？

A

●舞台ではなく古墳の一部

奈良県高市郡明日香村の山の斜面に、りっぱな石組みの舞台が見える。

じつは、これは古墳の一部で、中の石室がむき出しになって、舞台のように見えるのだ。

石室は、長さもはばも五メートル、厚さ二メートルもある大きな石をいくつも積み上げてつくったものだ。もとは五十メートル四方もの土台の上に、もり土でおおわれていたものらしい。

●蘇我馬子の墓？

石舞台古墳は蘇我馬子の墓だろうといわれている。

これだけの工事をすることができたのは、この地に住み「大臣」とよばれて勢力をふるった、蘇我馬子ではないかと、考えられるからである。

Q 豪族たちは、どんな家に住み、どんな服装をしていたのかな？

A

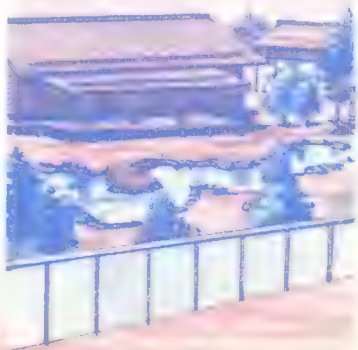
●土べいで囲まれた板じきの家

豪族の屋しきは、土をぬり固めた高いへいに囲まれ、部屋数も多かった。家の中は板じきで、わらで編んだしき物にあぐらをかいてすわった。いすにこしかけることもあった。

▲儀式に着る衣服

●正装は中国風

当時の豪族は、ししゅうや花飾り、ひだなどをつけた衣を着て、錦（高価な絹織物）で織ったかんむりをかぶっていた。はかまは太く、ふだんはひもで結んで着ていた。木ぐつなどもはいていた。

朝廷の儀式に着る衣服は、ひざの下までたれる長いもので、わきが分かれており、中のはかまがのぞいて見えるような中国式だった。古墳時代のような首飾りや耳飾りはしなくなった。

Q 日本で初めて年号が使われたのは、いつのことかな？

●最初の年号は「大化」

孝徳天皇が即位した大化の改新で、初めて中国風に元号（年号）を決め、大化一年、二年と呼ぶようになった。また、「日本」という国号も、大化の改新ごろから使われるようになったという。

それまでは、朝鮮から学んだこよみにしたがって、干支だけを使っていた。

●年号以前の年の決め方

聖徳太子が死んだのは、壬午年二月二十二日であるというが、壬午年とは甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸の十干に、十二支を組み合わせて出てくるもので、六十年目ごとに使われることになる。

数え年六十一才になった老人のお祝いを「還暦」というのは、ここからきた。

Q 平城京の都づくりは、どのようにして行われたのかな？

A

●苦労が多かった都づくり

『続日本紀』は、都づくりの様子を「国国の人民は都づくりにつかれ、にげたりかくれたりする者が多い。そのうえ、都に働きに来た者の中には、仕事を終えて都を出ても、食料がないために国へ帰りつけず、行きだおれになる者も多かった」としるしている。

●減税でごきげんとり

こうして苦しむ農民が多かったため、税を軽くして農民をなだめようとしたこともあったほどだ。

こうした苦労の末、できあがったのが平城京だ。

▼平城宮（上）を中心に都がつくられた。（復原模型）

Q 唐にわたった人々は、その後どうなったのかな？

A

●遣唐使の目的

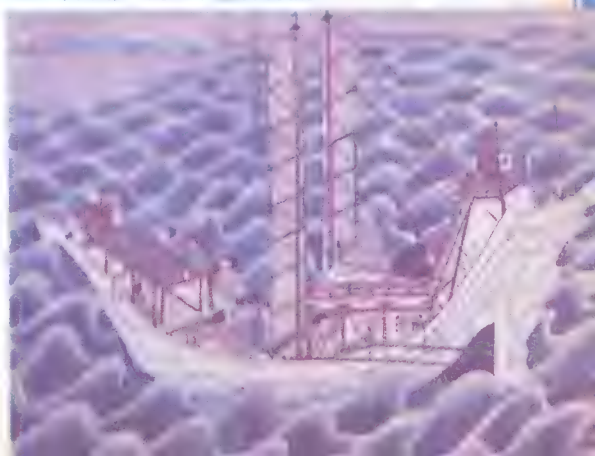
遣唐使が送られた目的は、外交というよりも、大陸の進んだ文化をとり入れることにあった。

唐（中国）にわたった留学生たちは、次の回の遣唐使船が来るまで、長い間唐にとどまって学問にはげまなければならなかった。なかでも有名なのは、阿倍仲麻呂と吉備真備だった。

●高い位の役人へ

阿倍仲麻呂は、唐の玄宗皇帝の皇子の学友となり、留学生でありながら、唐の朝廷に仕えた。

当時の船旅は命がけで、仲麻呂は日本に帰ろうとしたが、船が難破して果たせず、唐にもどって再び朝廷の役人となり、高い位にまでついた。

▼唐（中国）へ向かう遣唐使船。

吉備真備は、いろいろな学問を修めて日本へ帰った。そのとき、たいじな書物や武具なども持ち帰り、のちに右大臣の地位についた。

Q 奈良時代の役人の収入は、どのくらいだったのかな？

A

●田や農民をあたえられた貴族

位によってちがうが、上級貴族は田や農民を割り当てられ、そこから納められる税が収入になった。下級貴族でも、綿や布などをもらったり、位のない役人でも半年に一度ボーナスが出た。支給された品物は、都の市で好きな品物と交かんすることができたのだ。

●今のお金で年間二億数千万円！

これらの収入をすべて合わせると、左大臣・右大臣では、今のお金で年間二億数千万円にもなった。

Q A

奈良の大仏は、どうして造られたのかな？

●毘盧舎那仏の持つ力を信じた

奈良の大仏は、東大寺の本尊として造られたもので、毘盧舎那仏という。

この仏の持つ力に強く心をひかれた聖武天皇は、広く国民の協力を求めて大仏を造ろうと、七四三年、大仏造営の詔を出した。

大仏は中央の大きな建物にある。

そしてこの毘盧舎那仏は、大宇宙の中心でもあり、その中心であるのにふさわしい大きさでなければならない、と聖武天皇は考えたのである。

●仏教と政治が結びついていた

また当時の人々は、仏の力によって政治がうまくいき、平和も保たれると考えていた。そこで乱れた社会の不安を取りのぞこうとして、聖武天皇は国分寺と国分尼寺を各国ごとに建て、豊作と国

▼奈良の大仏。高さ約16m。

▲東大寺。

の繁栄をいのった。そして国分寺の総本山として東大寺は造られ、大仏（毘盧舎那仏）が安置されたのである。

Q 平安時代の女性の名は、どのようにしてつけられたのかな？

A

●記録に残っていない女性の名

『源氏物語』を書いた紫式部は、藤原為時のむすめだから、姓は藤原だ。しかし、名前の方は記録に残っていない。

当時、宮中に仕える女性は、父や兄の役職にちなむ名前を持つのがならわしだったのだ。

●「紫式部」の由来

「紫」は『源氏物語』の中の若紫からとり、「式部」は、父為時が長い間、式部丞という役目についていたし、兄もまた式部丞になったところからつけられたものだと考えられる。

平安時代の貴族たちは、どんなものを食べていたのかな？

●一日二食、鳥肉がごちそう

食事は一日二回だった。このころは、仏教のえいきょうで、けものの肉は食べない習慣があり、キジやカモなどの鳥肉が、たいしたごちそうになった。魚では、タイが喜ばれた。

ふだんの食事は、こしきで蒸した強飯に、吸物や野菜、魚などのおかずをそえたものだった。

●少なかった調味料

塩、みそ、す・などはあったが、砂糖はまだなかった。あまくする調味料として、はちみつや甘葛（つる草の一種で、くきからあまいしるがとれた）が使われていた。

今のようにしょうゆが使われるようになるのは、もっと後のことだ。酒もあったが、酒かすをこしていないにごり酒で、飲むというよりは食べるようなものだった。

▲当時の貴族の屋しき。広大な庭に池を配し、庭でけまりなども行った。（模型）

Q 寝殿造の住み心地は、どうだったのかな？

A

●寒さがしみる冬

盆地の中にある京の都の冬は、寒さもまた格別だった。

貴族たちの屋しきは、かべが少なく、すだれや壁代（かべの代わりの布）で仕切っただけで、区切られた部屋はなかった。暖房器も、火おけ（火ばち）くらいしかなかったので、ガタガタふるえるほどだったようだ。

●夏をすずしくする工夫

夏は冬よりは過ごしやすかったようだ。

池にのぞんで建てられた釣殿は、下を水が流れたり泉がわき出すようになっていた。

貴族の世の中　年表とまとめ

時代	和時代					
世紀	6世紀				世紀	
西暦	五三八	五八七	五九三	六〇三	六〇四	六〇七
おもなできごと	●百済(朝鮮)から仏教が伝わる。五五二年ともいう。	●蘇我氏が物部氏をほろぼし、力を強める。	●聖徳太子が推古天皇の摂政になる。	●冠位十二階ができる。	●十七条の憲法ができる。	●小野妹子が隋(中国)の皇帝に国書をわたす。

【一】聖徳太子の政治

①冠位十二階
家柄に関係なく、能力がある者を高い位につけるようにした制度。

②十七条の憲法
天皇中心の政治を進めるための、役人の心がまえを十七条に定めた。

③遣隋使
隋(中国)の進んだ政治や文化を学ばせるため、小野妹子らを派遣した。

④法隆寺
仏教を深く信仰した太子が建てた寺。

時代	世紀	年	できごと
大	7	六〇七	法隆寺が建てられる
		六四五	中大兄皇子らが大化の改新を行う。
奈良時代	8世紀	七〇一	大宝律令ができる。
		七〇八	日本最初のお金、「和同開珎」ができる。
		七一〇	平城京（奈良）に都を移す。
		七一二	『古事記』ができる。
		七二〇	『日本書紀』ができる。
		七五二	東大寺の大仏ができる。
平安時代		七九四	平安京（京都）に都を移す。
	9世紀	八〇四	最澄・空海が遣唐使とともに中国にわたる。

【二 大化の改新】

①大化の改新

六四五年、天皇中心の世の中にするため、中大兄皇子と中臣鎌足は蘇我氏をほろぼし、改新の政治を行った。

②公地公民制と人々の義務

すべての土地と人々を朝廷のものとした。人々は口分田を耕し、租・庸・調などの税を納めた。九州を守る兵役にもかり出された。

③荘園の広がり

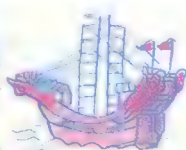
朝廷の高い位についた貴族は、荘園をふやしていき、公地公民制は次第にくずれていった。

時代	世紀	西暦	おもなできごと
平安時代	9世紀		(藤原氏が摂政・関白になり、力を強める。)
		八九四	●菅原道真の意見によって遣唐使を廃止する。
	10世紀		(貴族が荘園を広げ、力をのばす。)
	11世紀		●『枕草子』ができる。
			●『源氏物語』ができる。
		一〇一六	●藤原道長が摂政になる。
		一〇五三	●藤原頼通が宇治に平等院鳳凰堂を建てる。
			(院政が始まる。)
			(武士が勢いを持つ。)

【三 貴族の世の中の文化】

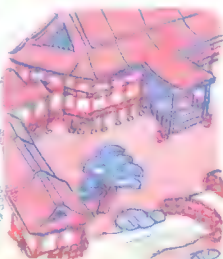
①古事記と万葉集

『古事記』は日本最古の歴史書。『万葉集』は天皇から農民までの歌を集めた歌集。

②遣唐使

唐(中国)の進んだ政治や文化をとり入れたり、貿易を行うために、使節を派遣した。

③寝殿造と藤原道長

貴族は、美しい庭園の広がる寝殿造に住んでいた。貴族の中でも大きな力を持ったのが藤原氏で、有名な＊「望月の歌」を歌った道長のころ、もっとも栄えた。

＊「この世をば、わが世とぞ思う 望月の かけたることも なしと思えば」

第4部 武士の世の中へ

朝廷の支配が弱まり、貴族に代わって、各地で武士が力を持つようになってきた。

人物まんが

源頼朝を読む前に

武士が力を持つようになった時、二大勢力・源氏と平氏の対立が始まった。今からおよそ八百年ほど前の日本には、その対立の中から、新しい政治のしくみが生まれようとしていた。

どうして鎌倉に幕府を作ったと思う?
その質問ならぼくにまかせて。

それは海水浴ができるからに決まってる。

おいしいケーキ屋さんもあるんだぜ。

こらーっ、まじめに聞いてるんだよー。
ともかく人物まんがを読んでから返事をするよ。

人物まんが

武家政治を始めた 源頼朝

源頼朝は、命を落とす寸前に救われた。しかしその後二十年もの間とらわれの身となった。やがて源氏の頭として立つ時が…。

絵・田中正雄

一 おごる平氏をたおせ！

一一五九年十二月、平治の乱
頼朝は、父源義朝に従って
平清盛の軍を相手に
勇ましく戦った。
十三才だった。
しかし、戦いに
敗れ、東国に
のがれるとち
ゅう、ふぶきの
中で父とはぐ
れてしまった。
お父
うえー。

平清盛➡

めしとりました頼朝のしまつ、いかがいたしましょう。

うち首に決まっておる。

ぐずぐずせずに早くいたせ。

源氏と平氏の主な人たち

*頼朝が流された所は、伊豆の蛭ヶ小島で、現在の静岡県韮山町の東方一キロの所にあります。

それから二十年。頼朝は伊豆の蛭ヶ小島で、父や池禅尼様のぼだいをとむらっていた。静かに日を送っていた。
ある夏の日、身なりをかまわぬ一人の僧が、頼朝の住まいを訪れた。
頼朝どのは、おいでかな。
何者だっ。
名乗りなさい。
名前なぞにこだわりなさんな。
たくはつ坊主の来るところではないぞ。帰れっ。
ふん。

たくはつ坊主かと思ったらばくはつ坊主だ。
これは文覚上人様。

あの方は、もと遠藤盛遠といったごうけつで、その後ものすごい荒行をした上人様だ。
後白河法皇様を相手にひとあばれ。
神護寺再興のため、けちけちせず寄付しなさい。
らんぼうな。

それで、この伊豆へ流されてきた方だ。
京都
伊豆
そんなすごい坊さんだったのか。
強いばかりか、立派な考えをお持ちの上人様だ。

この二十年の間に、平清盛めは武士のとうりょうであることを忘れて、朝廷内に勢力をのばし、
まだ、三才の自分の孫に天皇をつがせるなぞ、したいほうだいですぞ。

平治の乱の後、平清盛は、後白河法皇に重く用いられ、最高の位である太政大臣にまで出世していた。
正三位
正二位
従一位
太政大臣
太政大臣をやめ、出家したが、その力は日々高まっていた。

そのうち清盛のむすめ徳子が高倉天皇のおきさきになり、親王を産んだ。
法皇
清盛
重盛
盛子
徳子
以仁王
高倉天皇
言仁親王

清盛
法皇
二人は、おたがいに利用しあいながら、どんどん勢力を増していった。

一方、平氏一門の中から天皇のそばに仕える、身分の高い人がどんどん増えて、
平氏一門の全盛時代となっていった。

清盛
法皇
ところが、力がつくにつれて、清盛は、法皇の言うことをきかないで勝手なことをしだした。
ここらで少し、平氏をおさえておかんといかん。
法皇
法皇は清盛の子の重盛や盛子が死ぬと、その領地を取り上げた。
重盛の領地
おこった清盛は、
法皇を閉じこめてしまえっ。
そして、清盛は孫にあたる三才になったばかりの言仁親王に皇位をつがせ、安徳天皇とした。
院
高倉
安徳天皇
後白河法皇
わしの言葉は天皇の言葉と思えっ。
ははあ。

このように、清盛の独裁政治で、日本の政治はめちゃめちゃじゃ。
武士ののぞんだ政治ではありませんぞ。

地方の武士の不満は、今にもばくはつしそうになっておる。

将軍にふさわしいのは、頼朝どのただ一人。
今こそ、立って平氏を討つべきですぞ。

朝廷の許しがなくては平氏を討つことはできません。

以仁王より令旨(命令書)が届いているはず。
ごぞんじでしたか。

以仁王はその令旨が日本の再建に光をはなつときが来ると信じて亡くなられたのですぞ。

それに清盛は、その令旨を受けた者を残らず討とうとしておる。

頼朝どのが、源氏を率いて立ち上がる日を楽しみにしていますぞ。

では、ごめん。

立つときが来たぞ!!

この頼朝に従う者どもを集めよ!

はっ。

待ってました!

二 鎌倉を根きょ地にする

わあー、頼朝の軍勢が夜討ちをかけてきた。

うわっ。

山木判官を討ちとったぞーっ。

ギャフン

第一戦での大勝利。さい先がよろしゅうございます。

これより相模国(神奈川県)土肥に向かうぞ！三浦氏の軍勢もかけつけるはず。

北条時政をはじめとし、三百騎が頼朝に従って土肥に向かった。

今夜のうちに頼朝の軍をおそえ！
わ一。
わー。
頼朝の軍はよく戦ったが、明け方にはついに支えきれなくなった。
幸い雨も降り出しました。
頼朝様はこの雨にまぎれて、おにげください。

景時にすくわれた頼朝は、相模湾をわたり安房（千葉県）に上陸して、軍勢をたて直し、鎌倉に向けて出発。

頼朝が数千の兵を率いて隅田川に着いたとき、上総介広常が二万騎を率いてやってきた。
おそいではないか、広常。

おこらない、おこらない。わが軍は二万騎ですぞ。
きっとお力になりますぞ。
たとえ二万が三万であろうと、おくれてくるような者が何の役にたつか。
さっさと連れて帰れ！

おそれいった、さすがは源氏の大将。
どうかわれらを家来にしてください。

頼朝のもとへ集まる者がどんどん増えた。三万騎をこし、石橋山の負け戦から、四十日で堂々と鎌倉入り！

その後、頼朝が幕府を開いたころの鎌倉の地図
鶴岡八幡宮
山内路
幕府
梶原氏
六浦路
北条氏
和田氏
三浦氏
武蔵大路
寿福寺
大仏坂路
畠山氏
元八幡
極楽寺路
由比ケ浜
稲村ケ崎
小坪路
頼朝様のご先祖もこの鎌倉にお住みだったそうだよ。
ほーんと!
間もなく政子も伊豆から呼びよせられ、平和な日が始まるとみえたが…
たいへんです!!
何事か!
平氏の大軍が駿河(静岡県)まで、せまってきております。

三 源平の戦い始まる

やがて、源氏と平氏の大軍が富士川をはさんで向かい合った。

ところが、貴族の生活になれた平氏の武将たちは
和歌を作るのは得意だが。
戦はにがて。
ほんとに。

夜中にとつぜん起こった水鳥の羽音に平氏は敵の大軍がせめてきたと思って、
わーっ、源氏の大軍だ。
にげろにげろ。
あれー。

敵は戦わずににげてしまいました。
これより平氏の軍を追っていっきに京へせめ上ろう。
お待ちください。その…。

意見があるならかまわん、言ってみよ。
では……。関東には頼朝様にまだ従わぬ者どもがおります。
今はまず、関東の固めを十分にするのがかんじん。

そのほうの言うこともっともじゃ。
この頼朝、正しい意見を聞かぬほどばかではないぞ。
さすがわれらが見こんだおん大将。

奥州より義経様がお見えになりました。
おお牛若が来たか。
早くこれへ。

兄上が旗あげされたと聞き、奥州よりかけつけました。

義経は十六才から、奥州平泉の大将藤原秀衡のもとで、武将としての修行をしていたのである。

お会いできる日を楽しみにいたしておりました。
わしもうれしいぞ。これから兄弟力を合わせて戦おう。

鎌倉に帰った頼朝は、侍所という役職を作った。

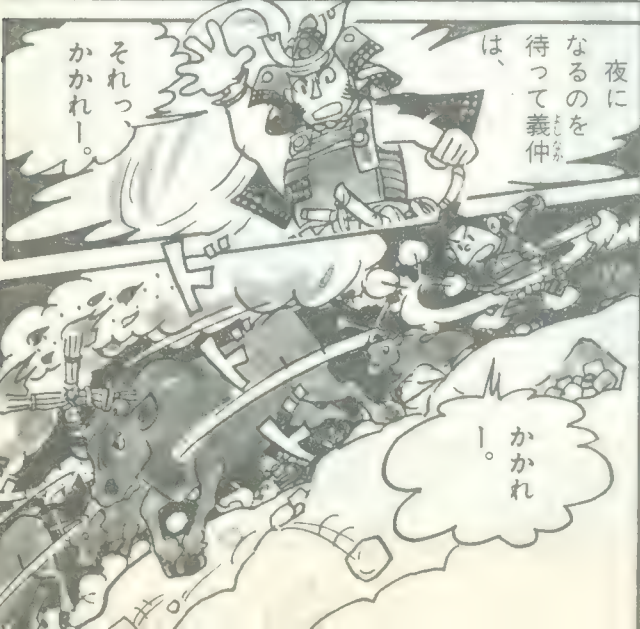
侍所の調べにより領地を認め、今度の戦で功労のあったものに新しい領地や恩賞をあたえる。

*ご恩と奉公…鎌倉幕府を支える基本的な関係。土地などをもらうこと(ご恩)に対して、軍事的な負担(奉公)を負う。

そのころ京都では…

なんでも清盛様はすごい熱病で、おたおれになったそうだよ。

冷水で冷やしても、すぐにお湯になってわき立つそうな。

一一八〇年九月。
頼朝のいとこの義仲は
木曽に旗あげをした。
頼朝が
鎌倉へ
もどった後も
京へ進み
続けた。
倶利伽羅峠に陣をしいた平氏の軍勢をうちやぶるのだ!
夜になるのを待って義仲は、
それっ、かかれー。
ドドド
かかれー。

わー。
モー。
モー。
源氏の夜しゅうだ。
こっちの山からも……。
ふいをつかれた平氏の多くが倶利伽羅峠の谷へ落ちていった。
義仲の進んだ道
能登半島
1183年5月
1183年6月
倶利伽羅峠
1181年6月
木曽
1180年9月
京都
1183年7月

平氏は都を捨ててにげていくよ。
帝も連れてゆくみたいだね。
法皇から伊予守にしてもらった義仲は……
えっへん。
馬までいばってる。
よこせ。
平氏を追っぱらったのはおれたちだぞ。
法皇様、われわれ貴族には野ばんな義仲はどうも気に入りません。
わしもそう思う。
こうなれば、頼朝を使って義仲をおさえさせよう。

義仲は法皇のお考えに腹を立て、法皇を閉じこめたそうです。
法皇様は頼朝公の立たれるのを、お待ちかねですぞ。

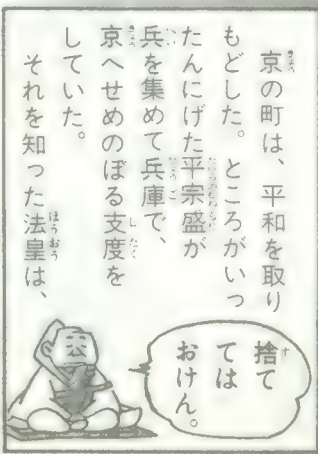
よかろう。
義仲は、弟の範頼と義経に、討たせよう。

義経の軍は、伊勢路を通って京へ…。
京
宇治川
範頼の軍
義経の軍
熱田

義仲の軍と義経の軍は宇治川をはさんで向かいあった。
橋の板ははがされていてわたれません。
流れはそうとうに早いようです。
義経は、飛んでくる矢もおそれず、先頭にたって勇かんに指揮をとった。
流れにそってななめに川上から川をわたるのだ。
ふるい立った義経の軍は宇治川をわたり、義仲の陣へせめ入った。
うわっ。おれたちより勇気があるぞ。
一一八四年一月、ついに義仲様は敗死…。

五 平氏、壇ノ浦でほろぶ

ひさしぶりにもとの静かな京の町にもどった。

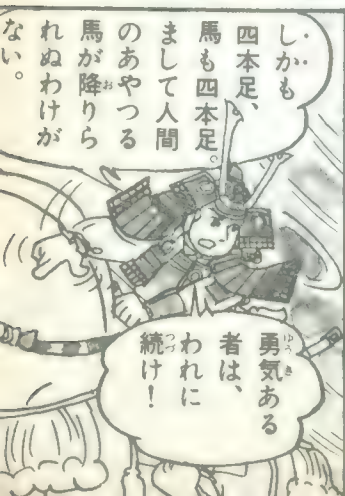
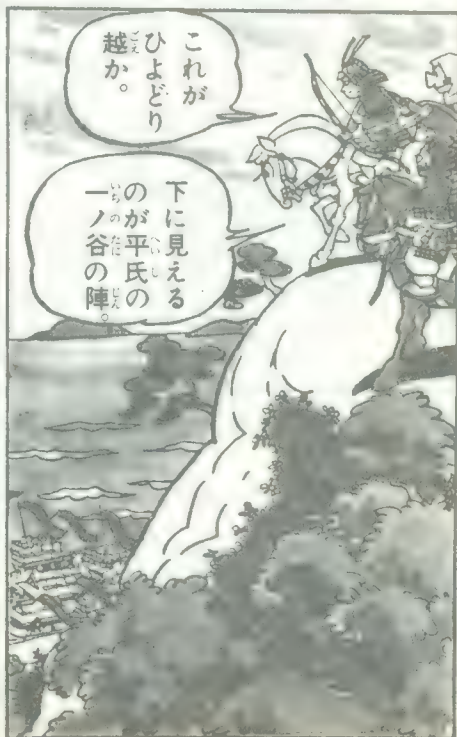
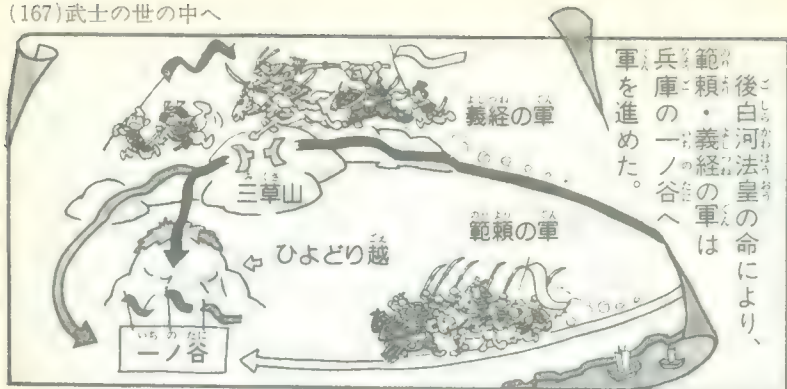
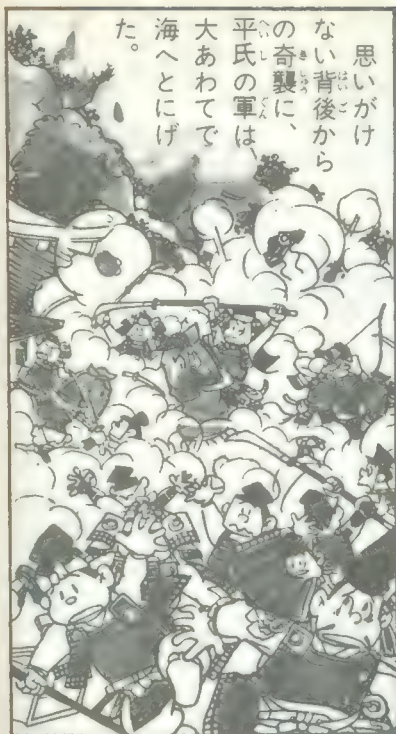
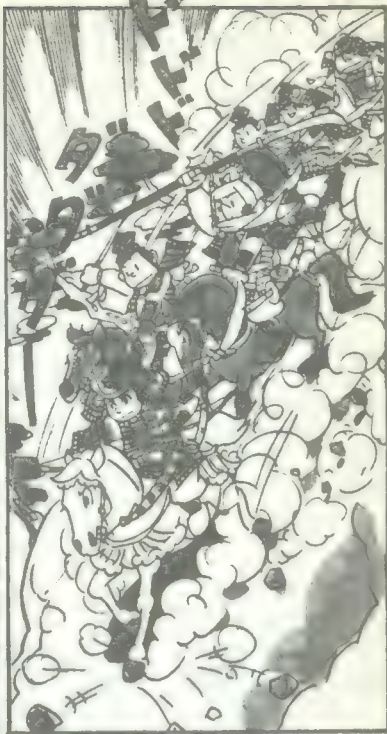
義経様は強いばかりかやさしくて立派な大将だ。

京の町は、平和を取りもどした。ところがいったんにげた平宗盛が兵を集めて兵庫で、京へせめのぼる支度をしていた。
それを知った法皇は、

後白河法皇の命により、範頼・義経の軍は兵庫の一ノ谷へ軍を進めた。
義経の軍
三草山
範頼の軍
ひよどり越
一ノ谷

これがひよどり越か。
下に見えるのが平氏の一ノ谷の陣。

この辺りに住む山男にたずねると、
ここを降りられるのは、しかだけだ。

しかも四本足、馬も四本足。ましてや人間のあやつる馬が降りられぬわけがない。
勇気ある者は、われに続け!

ダダダッ
ドドドッ

思いがけない背後からの奇襲に、平氏の軍は、大あわてで海へとにげた。

京へ帰った義経は、京の人たちにほめたたえられた。
義経様は天下一の大将だ。
すてき。

あれだけの働きに対して鎌倉からの御恩がなかったとは気のどくな。

朝廷から源義経を左衛門少尉と検非違使に任じよう。

ところが鎌倉では、御家人の団結をはかるため、官位を受けるときは頼朝を通して、官位を受けねばならなかった。

続いて義経の軍は、平氏が城を築いた四国の屋島に軍を向けた。
四国地方
これから馬で屋島へ向かうぞ。
屋島
そして裏山からふいにせめたので
わー。
わー。
わー、船へにげろ。
同じわーでもずいぶんちがうわ。
やーいここまでこられまい。
くそっ。またも海へにげられた。
東国の武士は、騎馬戦が得意だったが、瀬戸内海に根きょ地をもつ平氏は強い水軍を持っていた。

戦うとちゅう、平氏から一せきの船が出てきた。
あのおうぎの的を射よというのか。

鎌倉武士の弓のうでを見せてやる者はおらぬか。

この那須与一にお言いつけください。
よし、みごと射よ。

みごとにおうぎは射落とされて海中へ。

＊伊予…愛媛県　熊野…三重・和歌山県

平氏の軍が屋島から西に向かってにげてから一か月後、＊伊予・熊野などの水軍も加わり、さらに義経の軍は平氏を追って西へ向かった。

屋島から壇ノ浦へ

中国地方
壇ノ浦
屋島
九州地方
瀬戸内海
四国地方

やがて壇ノ浦で源平の決戦が行われた。

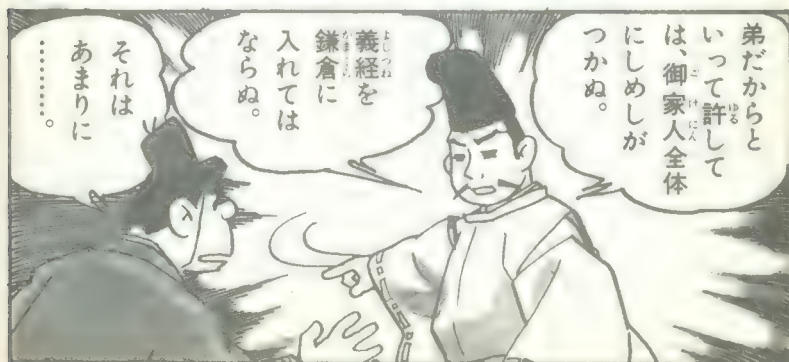
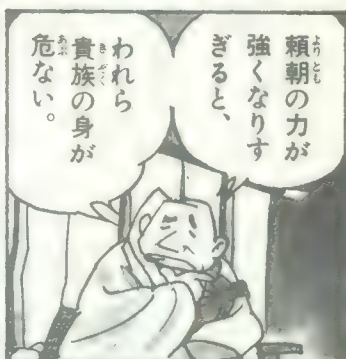
ひえっ。

ついに力つきた平氏の武将は
むねん。
平清盛の奥方であった二位尼も、もうこれまでと八才の安徳天皇をだいたまま海中へ…。
波の下にも都がございますぞ。わたしがおともいたします。
みごと最期をとげようぞ。
おおっ。
一一八五年三月。こうして平氏一族は、西海にほろび去っていった。

まもなく義経様が壇ノ浦でほりょとした平氏の者をつれて鎌倉へ帰ってまいりましょう。
そうか。

義経様の働きはみごとでございました。
武将としてはよく働いた。

だが法皇の腹の中が読めず、わしの命にそむいて官位についたこと……

弟だからといって許しては、御家人全体にしめしがつかぬ。
義経を鎌倉に入れてはならぬ。
それはあまりに……。

義経は鎌倉についに入れられず、京へさびしく引き返していった。

頼朝の力が強くなりすぎると、
われら貴族の身が危ない。

法皇は、さっそく義経を呼び出した。
さぞや残念であったろう。
頼朝追討の宣旨をそのほうにあたえよう。
ええっ、兄を……。

思いきって義経を正面から頼朝に対こうさせてやろう。

兄と戦いたくありません。だから、わたしは九州へ行こうと思っています。

よくわかった。義経を九州の地頭にしよう。

義経は三百人の家来を連れ、摂津・大物浦(兵庫県)から九州に向かって船出したが……。

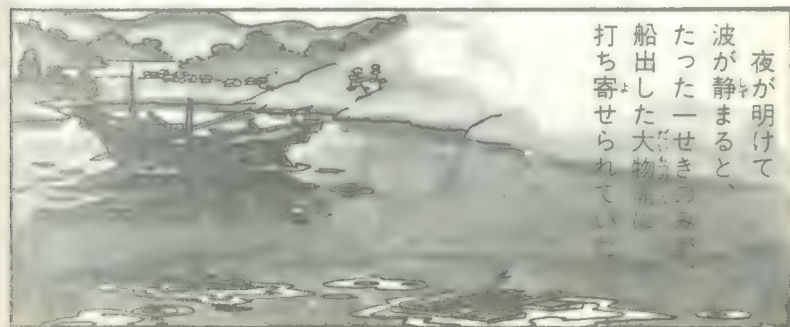
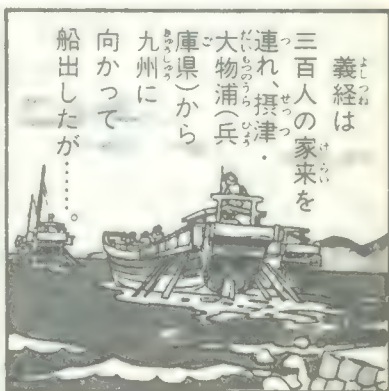
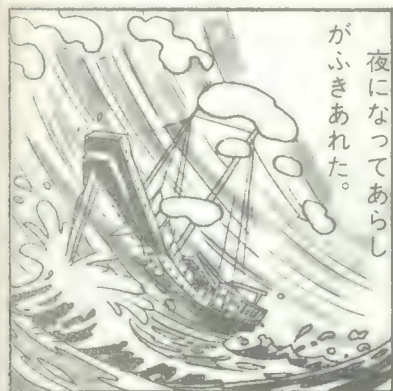
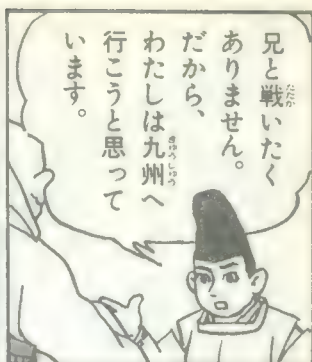
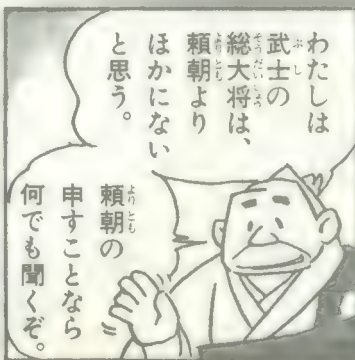
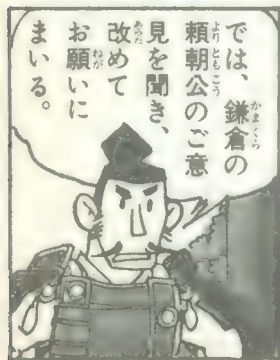
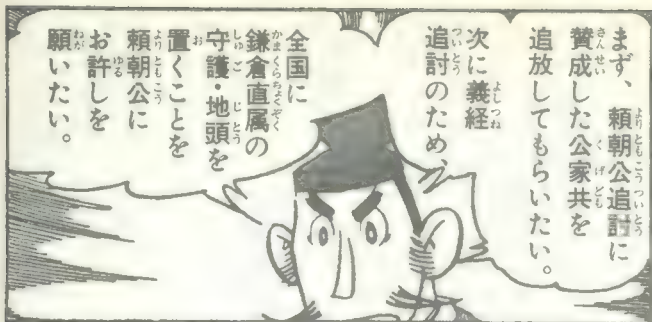
夜になってあらしがふきあれた。

夜が明けて波が静まると、たった一せきのみが、船出した大物浦に打ち寄せられていた。

義経が姿を消したと同じころ、頼朝の命により、北条時政が兵を引き連れ京に入った。
すごい大軍でおしよせてきたな。

頼朝公追討とはいかなる理由によるものですか。
あれは義経におどされて出したもの。
さっそく、義経追討の宣旨を出そう。

わたしは武士の総大将は、頼朝よりほかにないと思う。
頼朝の申すことなら何でも聞くぞ。

では、鎌倉の頼朝公のご意見を聞き、改めてお願いにまいる。

そして時政は、頼朝と連らくをとりながら、法皇との談判を始めた。

つまり、鎌倉の頼朝公が全国に配置する守護と地頭に、軍事権および警察権のすべてをまかせてください。

フワー。

……こうして、守護・地頭の制度を確立して、頼朝の力は不動のものとなっていった。

法皇も弱みがあっていやと言えなかろう。

ずい分強気になりおった。

頼朝支持

警察権

軍事権

守護

地頭

朝廷

義経追討の名目で、全国に支配がおよんだが、
まだ朝廷の支配も残っている。奥州・平泉には、藤原秀衡がまだ健在…。一気にせめるべきか。
だが、十六才から義経を育てた藤原秀衡はなかなかの人物らしい。

義経は、守護・地頭の目をのがれて旅を続け、一年以上かかって奥州の藤原秀衡の屋しきにたどりついていた。
ここへ来れば、もう心配はございません。
ありがとう秀衡どの。

ところが間もなく秀衡は病気でたおれ…
義経どのをお守りするのだぞ。
鎌倉からせめてくれば、義経どのを大将として戦え。
わかりました。
息子たちに言い残して、亡くなった。

秀衡が亡くなると頼朝のおどしに息子の泰衡は、
泰衡が裏切って、せめてきました。
味方は十人。
敵は数百人。
弁慶の最後の働きをごらんください。
弁慶よ、その方一人死なせんぞ。
いつまでたってもたおれないよ。
シーン
弁慶は力のかぎり戦い、立ったまま、討ち死にした。
そのころ、義経も最期を覚ごして自決していた。

藤原泰衡は義経を討ったほうびに、奥州征伐をやめてくれと願い出ております。
なんと。
武士の風上にもおけんおろか者の泰衡め。
奥州を征伐するぞ。
一一八九年七月。頼朝は、二十八万の大軍を率いて鎌倉を出発し、一気に藤原氏を討ちやぶった。

こうして頼朝は、天下を統一。
一一九二年、征夷大将軍となり、
鎌倉に幕府を開いた。
鎌倉
地方
京都
政所
（政治一般）
侍所
（御家人のかんとく）
問注所
（裁判など）
京都の守護
（貴族のかんし）
守護
（諸国の軍事）
地頭
（荘園の管理と年貢の取りたて）
伊豆に旗あげしてから十二年。
その後七百年も続く武家政治のもとは、こうして、源頼朝によって築かれたのであった。
わしがゆめ見た武士の政府ができたのだ。

人物まんが源頼朝のまとめ

一

保元の乱・平治の乱の二つを通じ、平氏の力は大きくなり、源氏はおとろえていった。

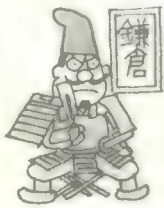
平清盛は、武士としてははじめて太政大臣に任じられた。

二

平氏に反対する勢力の結集があり、平氏打とうの動きもあった。以仁王の令旨が各地に伝えられ、より活発になった。

三

源頼朝は、北条時政の助けをえて兵をあげた。

いったんは、戦いに敗れてにげるが、豪族たちの援助を受けることに成功して鎌倉に入り、ここを根きょ地とした。

四

頼朝のいとこ・源義仲も平氏打とうの兵をあげ、京都へせめ上った。

しかし後白河法皇を中心とする貴族と争いを起こし、頼朝の弟の範頼・義経に討たれ、義仲はほろびた。

五

西国にのがれた平氏は、範頼・義経の軍に追われ、壇ノ浦の戦いで完全にほろんだ。

この後、頼朝は朝廷から征夷大将軍に任じられ、武家の政権を名実ともに確立した。

〈武士の世の中へ〉のおもな人物像

【平将門】？〜九四〇
平安時代中期の武将。土地争いからおじの平国香を殺し、朝廷に対して反乱をおこす。関東を支配したが、平貞盛、藤原秀郷らに討たれた。

【藤原純友】？〜九四一
平安時代中期の貴族で伊予（愛媛県）の国司。任期後も京都に帰らず、瀬戸内海の海ぞくの頭となって反乱をおこし、小野好古らに討たれた。

【源義家】一〇三九？〜一一〇六？
平安時代後期の武将。八幡太郎と名乗る。東北地方でおこった前九年の役と後三年の役をしずめ、東国に源氏の勢力を広めた。

【白河上皇】一〇五三〜一一二九
平安時代後期の*上皇。政治の実権を藤原氏からうばい返すため、天皇の位を退き、摂政や関白のえいきょうを受けない上皇になり、院政を始めた。

【平清盛】一一一八〜一一八一
平安時代後期の武将。保元・平治の乱で朝廷や源氏をおさえ、太政大臣となって平氏の全盛期を築いた。のち源氏との戦いの中で病死した。

【後白河法皇】一一二七〜一一九二
平安時代後期の*法皇。はじめは平清盛らを味方にして藤原氏をおさえたが、清盛が政権をにぎると、源頼朝らを利用して平氏をたおした。

【源頼朝】一一四七～一一九九
鎌倉幕府の初代将軍。平治の乱で伊豆に流されたが、のち兵を挙げて平氏をほろぼす。一一九二年、征夷大将軍となって鎌倉幕府を開く。七百年におよぶ武家政治が始まる。

【源義経】一一五九～一一八九
源頼朝の弟。平治の乱後、奥州の藤原氏にかくまわれた。のち頼朝を助けて平氏をほろぼした。頼朝と不仲になると、奥州にのがれて自殺した。

【北条時政】一一三八～一二一五
源頼朝の妻、政子の父。頼朝を助けて鎌倉幕府の設立に力をつくしたが、頼朝の死後、初代執権となって、幕府の実権をにぎり、執権政治の基礎を築いた。

【源実朝】一一九二～一二一九
源頼朝の子で、鎌倉幕府三代将軍。兄頼家が暗殺された後、将軍になったが、頼家の子公暁に殺され、源氏は三代でほろんだ。和歌にすぐれ、『金槐和歌集』を出した。

【後鳥羽上皇】一一八〇～一二三九
鎌倉幕府をたおそうとした上皇。源実朝が殺されると、政権を幕府から取りもどそうと承久の乱をおこしたが、敗れて隠岐に流された。

【北条泰時】一一八三～一二四二
鎌倉幕府三代執権。承久の乱で、幕府軍の総大将として朝廷軍を破る。一二三二年には、最初の武家法である「御成敗式目（貞永式目）」を制定した。

【北条時宗】 一二五一～一二八四

鎌倉幕府八代執権。十八才で執権になり、二度にわたる元（モンゴル）の襲来を退けた。しかし、この文永・弘安の役は財政難を引きおこし、幕府の力はおとろえていった。

【フビライ＝ハン】 一二一五～一二九四

チンギス＝ハンの孫で、モンゴル帝国の五代皇帝。中国を支配して国号を元と改め、日本征服をくわだて、二度にわたってせめたが失敗した。

【法然】 一一三三～一二一二

平安時代末期に浄土宗を開いた僧。当時の仏教はむずかしかったので、「南無阿弥陀仏」と念仏を唱えれば救われるという教えを説き、民衆の間に広めた。

【親鸞】 一一七三～一二六二

鎌倉時代に浄土真宗を開いた僧。法然に浄土宗を学んだのち、自ら浄土真宗（一向宗）を開き、念仏を唱えれば悪人でも救われると説き、農民の間に教えを広めた。

【一遍】 一二三九～一二八九

鎌倉時代に時宗を開いた僧。浄土宗を学んだのち、時宗を開き、おどりながら念仏を唱える「踊り念仏」で全国をまわり、教えを広めた。

【栄西】 一一四一～一二一五

禅宗の一派である臨済宗を開いた僧。二度にわたって宋（中国）で修行し、帰国後、鎌倉幕府将軍源頼家・実朝らの保護を受けて、臨済宗を広めた。「明庵栄西」ともいう。

【道元】一二〇〇～一二五三

禅宗の一派である曹洞宗を開いた僧。栄西について禅宗を学び、宋(中国)にわたって修行し、帰国後、曹洞宗を開いた。越前(福井県)に永平寺を建てて、修行の場とした。

【日蓮】一二二二～一二八二

法華宗(日蓮宗)を開いた僧。他の宗派を非難し、『立正安国論』で幕府を批判したので佐渡へ流された。のち許されて、身延山で弟子を教育した。

【後醍醐天皇】一二八八～一三三九

建武の新政を行った天皇。楠木正成らの力を借りて鎌倉幕府をたおし、建武の新政を行ったが、足利尊氏らにそむかれて、吉野にのがれ、南朝を立てた。

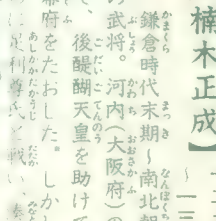
【楠木正成】一二九四?～一三三六

鎌倉時代末期～南北朝時代の武将。河内(大阪府)の豪族で、後醍醐天皇を助けて鎌倉幕府をたおした。しかし、のちに足利尊氏と戦い、湊川(兵庫県)で討ち死にした。

【新田義貞】一三〇一～一三三八

建武の新政で、後醍醐天皇に味方し、鎌倉をせめて幕府をほろぼした。新政では重く用いられたが、のち足利尊氏と戦って敗れた。

【足利尊氏】一三〇五～一三五八

室町幕府初代将軍。鎌倉幕府をたおすとき大きな手がらをたてた。しかし、後醍醐天皇の建武の新政に反対し、天皇を吉野に追って、京都に幕府を開いた。

武士の世の中へQ&A

Q 「さむらい」という言葉は、どのようにしてできたのかな？

●武士は貴族に「侍う」もの

武士のことを「さむらい」というが、これは侍うもの（付き従うもの）という意味だった。

平安時代には、各地に武力をたくわえた豪族たちがいた。かれらは、地方でこそ先祖から伝わった土地を支配する有力者だったが、都では貴族に付き従い、身の周りを守るくらいの身分でしかなかった。

●貴族の力を利用して勢力をのばす

そのようなことから「さむらい」という言葉が生まれたのだが、当時は都へのぼって、貴族に近づくことが、

自分の勢力をのばす最良の方法だった。

そこで、実力を持っていながら、貴族に仕えて働く者が多かったのだ。源氏や平氏なども、もともとはこうして勢力をのばしていった。

AQ 頼朝は、なぜ鎌倉を根きょ地にしたのかな？

●鎌倉を選んだ三つの理由

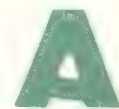
源頼朝が鎌倉を根きょ地にしたのには、三つの理由が考えられる。

第一は、鎌倉が海や山に囲まれた自然の要塞であったこと　第二は、頼朝の挙兵に際して、協力をおしまなかった三浦氏の根きょ地であったことである

●源氏ゆかりの地

第三には、鎌倉は源氏一族にとってゆかりの地だった　源頼義が鶴岡八幡宮を建て、子の義家がそれを修理している　このように、源氏と鎌倉のゆかりは深いのである

▶鎌倉幕府から敬われた鶴岡八幡宮

Q 武士がつくった最初の法律は、どんなものかな？

A

●『御成敗式目』の制定

一二三二年、北条泰時が、武士の道理をもとに出した『御成敗式目（貞永式目）』が、武士がつくった最初の法律だ。

それまでは、五百年ほど前にできた公家の法律しかなく、当時の社会に合わないことが多かったのだ。

▼北条泰時

●武士のための、武士だけの法律

主人には「忠」、親には「孝」を持て、といった内容が中心だが、土地争いの裁判では、女子が領地を持つことを許している。※

しかし、家来が主人をうったえたり、農民が地頭をうったえたりすることは許していない。

また、国司や荘園領主の争いは朝廷で裁判することとし、式目はあくまで武士のための法律であるとしていた。

▼御成敗式目（貞永式目）（前田育徳会）

Q 守護や地頭が、全国におかれるようになったきっかけは、何かな?

A

●義経を探すため

一一八五年十一月、頼朝の命令で千騎余りを率いて京都にのぼった北条時政は、「むほん人」義経征伐の許しを後白河法皇にせまった。法皇はその前に、「頼朝を討て」と義経に命令を出していた弱みがあったため、翌日には義経・行家(頼朝のおじ)をつかまえよ、と命令を出した。

●幕府の地方長官だった守護

続いて時政は、国々に守護・地頭を置き、田一反あたり五升ずつの兵糧米をとることを、朝廷に認めさせた。守護は幕府の地方長官・軍司令官・警察を一つにした役目で、義経・行家をさがし出すために置かれたものだが、のちに幕府の支配を固めるのに大きな役目を果たした。

▼後白河法皇

徳政令というのは、どんな法律だったのかな？

●御家人に都合のよかった徳政令

「徳政」とは、いい政治という意味だが、鎌倉時代の徳政令はそうではなかった。

当時、くらしに困って、自分の土地を売るようになった御家人（幕府に仕える武士）が多かった。それを見かねた幕府は、一二九七年、「御家人が売りはらったり、借金のかたとしてとられた土地を、もとの持ち主へただで返すように」と命令を出した。

●御家人たちの不評を買う

しかし、かんじんの御家人の間で土地争いがおこったり、ふみたおされてはたいへんと、金貸しも御家人に金を貸さなくなったりした。

そのため、かえって御家人の生活は苦しくなり、わずか一年たらずで、この徳政令ははい止されてしまった。

鎌倉時代の武士の館は、どんなものかな？

●農村の中に建つ館

土地を守るために農村の高台に館をつくり、周囲には深いほりや、土をもり上げた生けがきなどをめぐらせた。

中門をくぐると、使用人などの住む小屋、倉、馬小屋があり、中央に母屋があった。

●広い土地、かやぶき屋根の武家造

屋根はかやぶき、ひさしは板、床も板じきだった。母屋に続いて、家来やとまり番の使用人たちがつめる遠侍がある。夜には主人の寝所に大幕をはりめぐらせ、敵の矢が通らないようにした。

屋しき地は、一町歩（約一ヘクタール）から数町歩におよび、広い面積を持っていた。

▼板かべに囲まれた武士の館。母屋では主人がくつろいでいる。（清浄光寺・歓喜光寺）

Q

鎌倉武士が禅を好んだのは、なぜかな？

A

●死との対面から宗教を

禅宗には、栄西を開祖とする臨済宗、道元を開祖とする曹洞宗とがあった。

禅宗の修行はきびしい。「ただ、だまってすわる。心を空にしてすわる。そこに悟りを見る。」ことに己のすべてを集中し、心身をきたえなければならない。

いつも死と対面していた鎌倉武士が、このような禅の心にひかれたのも、うなずけるだろう。

●新しい宗教が芽生えた鎌倉時代

民衆の間では、法然の浄土宗や、親鸞の浄土真宗、(一向宗)、日蓮の法華宗などが、「ただ念仏を唱えれば救われる」という容易さで広まっていった。

臨済宗は上流武士、曹洞宗は地方の豪族に広まった。

◀臨済宗を開いた栄西

◀曹洞宗を開いた道元

Q 鎌倉時代の農民のくらしは、どうだったのかな？

A

●前の時代と変わらない農民の家

地頭などの住まいは、たたみをしいていない板の間だったが、床は高くしてあり、えんや部屋の仕切りの板戸もあって、家らしくなっていた。

しかし、農家はたいてい一間きりの土間で、そこにむしろをしいてくらしていたらしい。使用人の住まいになると、ほんのほったて小屋ていどのもので、麻の着物をまとってくらしていた。

●野草をつんで食料に

自分たちがつくる米は口に入らず、麦やアワ、ヒエといった雑穀を食べていた。

野に生えるセリやツクシ、ヤマノイモは大事な食物で、魚などは、あまり口にできなかった。

武士の世の中へ　年表とまとめ

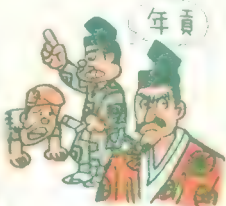
時代	世紀	西暦	おもなできごと
平安時代	12世紀	一一六七	●平清盛が太政大臣になる。
		一一八五	●壇ノ浦の戦いで平氏がほろびる。源頼朝が全国に守護・地頭をおく。
		一一九一	●栄西が臨済宗（禅宗）を伝える。
		一一九二	●源頼朝が征夷大将軍となり、鎌倉に幕府を開く。
代	紀	一二〇三	●北条時政が執権となる。
		一二一九	●源実朝が殺され、政権が北条氏に移る。

【一】源頼朝と鎌倉幕府

①中央の政治の仕組み

頼朝は、中央に政治を行う政所、裁判を行う問注所、警察の役目をする侍所を置いた。

②守護と地頭

守護は国ごとに置き、幕府の命令を伝えたり、警備をした。地頭は私有地に置いて、年貢のとりたてなどを行った。

③北条氏と執権政治

源氏は三代でとだえ、その後は頼朝の妻の実家の北条氏が執権につき、幕府政治を進めた。

時代	世紀	年	できごと
鎌倉時代	13世紀	一二三二	● 北条泰時が御成敗式目（貞永式目）をつくる。
		一二七四	● 元の大軍がおしよせる。（文永の役）
		一二八一	● 再び元の大軍がおしよせる。（弘安の役）
	14世紀	一三三三	● 鎌倉幕府がほろびる。
室町時代		一三三四	● 後醍醐天皇が建武の新政を行う。
		一三三六	● 南北朝時代が始まる。
		一三三八	● 足利尊氏が征夷大将軍となり、室町幕府を開く。

【㊂鎌倉幕府のめつ亡】

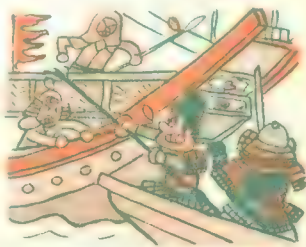
①元寇（文永・弘安の役）

元（モンゴル）が日本を従えようとおこした戦い。二度、日本をせめたが、ともに暴風雨で退却した。

②鎌倉武士の不満と幕府のめつ亡

元寇で戦った武士たちは、ほうびがもらえず、不満をつのらせていった。こうしたことが原因となって、幕府はほろびた。

③建武の新政と室町幕府

後醍醐天皇の建武の新政は、二年あまりしか続かず、代わって足利尊氏が一三三八年、京都に幕府を開いた。

日本の歴史㊤ さくいん

●みなさんが歴史を学習するうえで、ぜひ覚えておきたいことがらや人物(太字)、事件などをとり上げました。
●何度も登場する事柄は「人物まんが」や「Q&A」などの大きなまとまりで初めて出てくるページを示しました。

た

な

は

〔Q&Aの項目一覧表〕

教科書の「歴史(れきし)」の勉強がよくわかる
人物まんが

日本の歴史(れきし)㊤

この学習教材の編集にご協力くださったかたがた

●監修・慶応義塾大学名誉教授　江坂輝彌／埼玉大学教授　田代脩／実験考古学者　楠本政助

●指導／文・東京都世田谷区立中丸小学校教諭　高橋則行／筑波大学附属小学校教諭　倉地允視／神奈川県川崎市立宮前平中学校教諭　柳川正実

●絵・桜井はじめ／野崎猛／山内ジョージ／山口太一／森正人

●人物まんが・人見倫平／ムロタニツネ象／田中正雄

●写真・福岡市美術館／前田育徳会／建仁寺／神護寺／清浄光寺・歓喜光寺／興聖寺／神奈川県立博物館／高野山文化財保存会／奈良市役所／法隆寺／文化庁／東大寺／東京国立博物館／浜松市博物館／早稲田大学考古学研究室／土井ヶ浜考古館／国学院大学考古学資料館／加曽利貝塚博物館／石巻考古学研究所／石渡規善

●制作協力・冬陽社(岡村浩史)／清水秀子

●デザイン・アニマルハウス

●企画／編集・早川光二(編集長)／葛坂登(副編集長)／片岡優／鈴木俊男／前田太郎

6年の学習　6月教材　第2学習教材＝社会科　第43巻第3号　1988年6月1日発行　発行人　児山敬一／編集人・本郷左智夫　発行所　株式会社学習研究社　〒145 東京都大田区上池台4-40-5　電話(03)726-8270(学習編集部直通)　(03)726-8111（案内番号）　振替口座番号東京8-142930　印刷所　三晃印刷株式会社／岩岡印刷工業株式会社

■この学習教材に関するお問い合わせ、お気づきの点がありましたら、下記あてご連絡をお願いいたします。文書は、〒145 東京都大田区上池台4-40-5 学研　お客さま相談センター「6年の学習」係。電話は、東京(03)726-8124。

©GAKKEN 1988 無断複写・複製・転載・翻訳を禁ず

人物まんが「日本の歴史」㊤には…

卑弥呼

三十あまりのくにを従えた、邪馬台国の女王・卑弥呼とは？　なぞにつつまれた人物を、てっ底追究。

源頼朝

源平の戦いを勝ちぬき、貴族に代わって、武士の政権を確立した、源頼朝の苦しみと涙!!

聖徳太子

多くの超人的なエピソードがいっぱいの聖徳太子。その真実の姿と理想をわかりやすく解説!!

楽しい人物まんがのほかにも、それぞれの人物のまとめ、おもな人物像、Q&A、年表とまとめがあって、歴史の学習にピッタリ。

●名前

●この学習教材のねらい

日本の大むかしのくらしから，鎌倉時代までを，人物まんがやQ&A，まとめなどで，わかりやすく紹介しています。

「日本の歴史」㊤に引き続き，㊥，㊦も登場します!!　8月教材には㊥が，10月教材には㊦がつきます。「日本の歴史」㊤，㊥，㊦をそろえれば，あなたの歴史の勉強は，もう㊎です!!

3 6-121-67　Printed in Japan